

「これが21世紀の怪獣学だ！」  
 今までにない新たな特撮系同人誌、創刊。

Vol.1  
 July.2016

「中国におけるゴジラ人気とは？」  
 ゴジラと大国

「ついに発見！モスゴジ聖地！」  
 実録！東宝特撮聖地巡礼黙示録！

# レクシズマー レポート

シ

【特集】国産ゴジラ復活記念  
 海外事情・ロケ地探訪・データ分析・音楽論

「データベース化による怪獣映画分析！」  
 みえる！わかる！  
 怪獣映画なんでもデータベース

「特撮とメタルの関係性を解き明かす！」  
 ゴジラvsヘヴィメタル  
 《異形》ジャンルの異種格闘技戦

著・編集 ■ R.E.X.I.S.M.R

(Research Establishment of Xeromorph in Sleep Monger River)

## R.E.X.I.S.M.Rここに発足す ～まえがきにかえて～

---

今になって振り返ってみると、2000年代という10年間は、我々怪獣ファンにとっては冬の時代であった。そんな中でも、佳作となる怪獣映画やテレビ作品はあったにせよ、かつて当たり前のように感じていた「怪獣たちへの親近感や身近さ」は王であるゴジラの退場とともに薄れていったと感じることに異論を唱える人は少ないであろうと思う。

潮目が変わったのは、2010年代に突入してからである。

2012年の「館長庵野秀明 特撮博物館」の開催、2014年のレジェンダリー・ピクチャーズ版の「GODZILLA」公開、「伊福部昭百年紀」など、公式・非公式、プロ・アマを問わず、日本各地で様々な特撮・怪獣系のイベントが開催された。そして期を待っていたかのように、我々の主であり、真の怪獣の王が、その厳かな眠りから目覚めつつあることが明らかになってからは、従者である怪獣ファンたちの中のある者は得意の絵でイラストを描き、ある者は立体造形物をこしらえ、またある者はネット上で熱弁を振るったりなど、それぞれが思い思いの方法で、王の帰還をいまかいまかと待ち続けている。

そんな中、多くの例に漏れることなく、彼ら怪獣たちに幼き頃から心奪われ、その後訪れた、およそ10年にも及ぶゴジラ不在の時節を経てもなお、情熱の灯を決して消すことのなかった関西在住のファン4名が、関西における怪獣・特撮関連情報の発信拠点である、某怪獣系玩具メーカーのある寝屋川の地に集結することは、もはや必然であった。

「何か自分たちも面白いことがやりたい。」

「これまでのファン活動を何か形に残したい。」

当初は作品の感想を述べあったり、グッズを互いに確保しあったりとよくある怪獣ファンの互助会的な集まりでしかなかった我々も、いつからかそんなことを考えるようになり、それぞれの得意とする活動分野を生かしたゴジラにまつわるコンテンツを外部に向けて発信しようと試みるようになった。

そうして、「寝屋川の架空生物調査機関」  
(Research Establishment of Xenomorph in Sleep Monger River)  
R.E.X.I.S.M.R.がここに発足したのである。

そして目前に控えた、国内では12年ぶりとなる新作「シン・ゴジラ」  
公開に際し、我々REXISMERはあるレポート（同人誌）をWeb上で配信するに至った。

本誌のコンセプトは  
「これまでになかったゴジラ/怪獣同人誌」  
「バカなことを本気でやってやる」 である。

創造主である田中友幸、本多猪四郎、円谷英二、伊福部昭の4人は、  
1954年当時にはなじみのない、ともすればキワモノ扱いであった特撮映画を  
一切「媚びない」「照れない」を合言葉にゴジラを製作し、この世に産み落とした。  
彼ら創造主の遠く足元にも及ばないながらも、我々4人も同じ意気込みで本誌を執筆、製作した。  
テキスト主体であり、内容もピギナー向けとは言えないものになってはいるものの、  
その分読み応えとコンテンツの独自性により、多くの怪獣ファンに楽しんでいただける  
一冊になっていると自信を持って申し上げたい。

本誌もこの近年稀にみるゴジラ・怪獣ブームのお祭りムードに一役買えることを、  
また、現在のような熱狂の夢うつつが、できるだけ長く続くことを祈りつつ、  
これをまえがきとかえさせていただく。

2016年7月

R.E.X.I.S.M.R.

## 目次

---

Report 1. 『ゴジラと大国』（文：さよたま）

Report 2. 『実録！東宝特撮聖地巡礼黙示録！』（文：ぶなしめじ）

Report 3. 『みえる！わかる！怪獣映画なんでもデータベース』（文：帯津さんの後輩）

Report 4. 『ゴジラVSヘヴィメタル「異形」ジャンルの異種格闘技戦』（文：真田ゼウス）

## Report 1

『ゴジラと大国』

文：さよたま

## 変革する映画市場

---

2014年にレジェンダリーピクチャー製作の『GODZILLA ゴジラ』が公開された。

本作は全世界で5億ドルの興行収入を記録した。アメリカだけで2億ドルの興行収入を記録し、ゴジラの根強い人気を示すに至った。

日本では32億円、当時のレートで2993万ドルとなる数字を記録し、14年の洋画興収ランキング4位に位置付けている。

アメリカは映画一作に何億ドルという資金を投入している。『GODZILLA ゴジラ』も1億6000万ドルという巨額が投入されている。日本版の十倍以上の資金となっているが、これほどまでの巨額を投入できる理由は世界市場で勝負できるからだ。

2億ドル近い資金を投入しても、アメリカだけでは回収することが難しい。しかし、全世界で配給すれば、制作費の倍以上の収益を上げることが可能となる。

その世界公開のおかげで赤字の危機を免れた作品も存在している。

2013年公開の『パシフィック・リム』が最たる例だ。1億9000万ドルの制作費に対して、アメリカ興収は1億ドルという結果に終わった。アメリカだけでみると大赤字であるが、中国で公開されたことにより本作は救われた。

中国興収はアメリカを超える1億1194万ドルとなり、アメリカと中国だけで制作費と同程度の収益を記録したのだ。パシフィック・リムは全世界で興収4億ドルという結果になり続編が決定した。この続編決定は中国市場の存在がなければ実現しえなかったのだ。

他にも中国が赤字を救った作品が存在している。

2015年公開の『ターミネーター:新起動/ジェニシス』も中国では1億ドルを超えたのに対し、アメリカでは9000万ドルに届かない結果となった。

2014年公開の『トランスフォーマー/ロスト・エイジ』はアメリカで2億4543万ドルの結果だったが、中国では3億2000万ドルの脅威的な数字を記録した。

中国興収が制作国を上回る現象はハリウッド映画だけで発生しているわけではない。

2016年2月に中国で『聖闘士星矢 legend of sanctuary』が公開された。日本では2014年6月に公開された作品だ。一年半ほど遅れての公開となったが、興行収入は569万ドルを記録した。日本では215万ドルであり、中国は制作国日本の倍以上の興収を記録したのだ。

上記のように中国の映画市場は年々勢いを増している。かつては弱小市場として無視されていたが、この十年ほどで世界一の映画市場であるアメリカ合衆国を抜かんとばかりの成長を遂げているのだ。

それを証明する作品がある。2016年に中国で公開されたチャウ・シンチー監督作の中国映画『美人魚』だ。本作は中国国内だけで5億ドルを超える収益をあげている。これは『GODZILLA ゴジラ』の世界興収に匹敵する数字だ。

中国は今や映画大国としてその地位を確固なものとしている。スクリーン数も増加しており、2017年にはアメリカを抜いて世界一の映画市場になると予測されている。

世界はこの巨大市場を手に入れるために躍起になっているのだ。

2013年公開の『アイアンマン3』は中国企業との共同製作であり、中国限定シーンが追加されている。『トランスフォーマー/ロスト・エイジ』も中国企業との共同製作であり、物語の後半は中国が舞台となっている。

『GODZILLA』は中国企業との関連はないが、ラストバトルがサンフランシスコのチャイナタウンであり、中国を意識した作りであることが伺える。

近年の経済成長により余裕のできた中国人は海賊版から脱却をはじめ”映画は映画館で見る物”との意識が肥大化して

いる。現在も年間数千のペースでスクリーンが増え続けていることも、その意識を証明させる要因と言えるだろう。2015年の中国国内総観客動員数は8億人に達し、スクリーン数も3万近い数字になっている。

今、世界は中国の巨大市場を見据えている。中国では輸入映画は年間34本しか公開できない制限を設けている。しかし、この制限は中国企業とタッグを組むことで免除されるようだ。この巨大市場を手に入れるため世界の映画会社は共同製作や合弁会社を立ち上げることで、上映規制を回避する動きが出ているほどだ。

そのような状況下で『GODZILLA』は中国市場で公開された。急成長する中国の人々は日本のキャラクターである『ゴジラ』をどう見て、どう捉えたのか論じていきたい。

## ゴジラとの遭遇

---

中国でゴジラ映画が公開された事例は14年の『GODZILLA ゴジラ』まで存在していない。

中央電視台（日本におけるNHK的な立ち位置のテレビ局）では『ゴジラ・ファイルウォーズ』やトライスター版『GODZILLA』が放送されたことがあるようだ。

ゴジラ映画のDVDも正式発売されている作品は少ない。1954年版『ゴジラ』、『ゴジラ・ファイナル・ウォーズ』、トライスター版『GODZILLA』、そして『GODZILLA ゴジラ』のみとなっている。2016年4月に上海のテレビ局で『ゴジラ×メカゴジラ』が放送されたが、中国のテレビでゴジラ映画が放送されるのは稀有な事例なのだという。

中国人は正式な形でゴジラに触れる機会は少ない。そのためゴジラの知名度が高いとは言えず『ゴジラ』と聞くと1998年のトライスター版『GODZILLA』を連想する人が多い。前述のようにトライスター版は中央電視台で何度か放送されており、このことがゴジラ＝トライスター版という図式を完成させたようだ。

しかし、中国にもゴジラファンが存在している。彼らはどのようにしてゴジラ映画に触れたのだろうか。

中国はコピー大国と揶揄されるほどに海賊版で溢れていた。映画のみならずブランド品やキャラクターまでもをコピーし、世界中で論争を巻き起こした過去がある。

ゴジラ映画もそのコピーの波から逃れることは出来ず、字幕を付けた海賊版DVDやVCDが出回っていた。そこからゴジラに触れファンになったという人もいる。

また、現代ではインターネット上での違法配信で初めてゴジラ映画を観たという人もいる。

合法的な形で鑑賞するには香港版などのDVDを購入するしかない。しかし、香港と中国では言語が異なるため、字幕を理解できる人はそれほど多くないのが現状だ。中国人がゴジラを鑑賞するには海賊版や違法配信しか方法がないというのが現状である。

このように”正式な形”ではゴジラ不毛の地ともいえる中国だが、2014年6月に『GODZILLA ゴジラ』が公開された。

2014年6月13日に中国でギャレス・エドワーズ監督の『GODZILLA ゴジラ』が封切られた。日本より一か月半近くも早く公開された。

最終的には7700万ドルを超える興行収入を記録し、アメリカに次いで世界第二位となる成績を収めた。日本では2993万ドルであり、中国市場の巨大さが示された結果といえるだろう。

先述した通り、ゴジラの知名度が高いとは言えない国だ。そのため、様々な宣伝攻勢が行われた。

北京に巨大なゴジラ像が出現し。ギャレス・エドワーズ監督と中国の巨匠チャン・イーモウ監督が北京電影学院にて対談を行った。またジョー・プロディ役を演じたブライアン・克蘭ストンが中国に向けたメッセージ映像を発表するなど、中国市場を強く意識した宣伝攻勢がなされた。そのおかげで中国はアメリカに次ぐ成績を記録したのである。

## 中国人が見た『GODZILLA ゴジラ』

---

中国人にとっては初体験となるゴジラ映画は大ヒットを記録し、14年の中国興収ランキングで18位に位置付けた。これほどのヒットを記録した要因はラストバトルがサンフランシスコのチャイナタウンであることも無視できないが、何よりも"映画館で観れるゴジラ映画"という念願が叶ったという点が大きい。

テレビでゴジラ映画が放送されたことがあっても、劇場で鑑賞する機会はこれまで存在していなかった。ファンは"劇場でゴジラを見る"ことを心待ちにしており、それが14年の『GODZILLA ゴジラ』で実現した。幼少の頃から劇場でゴジラを鑑賞することが夢だった、と語るファンも存在している、大ヒットの要因は中国人ファンの夢を実現させた点も大きいだろう。

大多数の中国人にとって、『GODZILLA ゴジラ』が初めて鑑賞するゴジラ映画となった。初めてのゴジラ映画ということもありジャンジラ原発から出現した『M.U.T.O.』をゴジラと勘違いした人もいたようだ。そのため「ポスターと全違う！」との困惑の声もあったらしい。ただその困惑はゴジラの出現によって解消される。一部のファンからは「反核や反戦、自然問題を絡めており日本のゴジラを見事に踏襲している」との評価があった。初めてゴジラを鑑賞した人は「予想よりも戦闘シーンが少なくてがっかりした」との意見も出た。評価は千差万別であり、映画を観る目は日本とあまり変わらないと言えるかもしれない。

しかし、大ヒットとなった『GODZILLA ゴジラ』は新規ファンを取り込むことに成功した。公開後は百度に開設されている中国ゴジラコミュニティの会員数が増回し、新規ファンによるゴジラシリーズへの質問が相次いだ。2016年6月現在は会員数が2万4000人を超える一大コミュニティに成長している。

コミュニティでは日本のゴジラ映画を観るにはどうしたらいいのか？ ゴジラは正義の味方なのか？ といった質問が飛び交っており、現在は『シン・ゴジラ』の話題も飛び出しているほどである。

『GODZILLA ゴジラ』は中国人にゴジラという存在を知るうえで重要な立ち位置となっており、まさに入門編といえる作品だ。

そしてコミュニティでは『GODZILLA ゴジラ』から"日本のゴジラ"へと橋渡しがしっかりと行われ、古参や新参問わずに『シン・ゴジラ』へ熱い視線を注いでいる。

中国での公開は現時点で不明だ。そのため、日本への鑑賞旅行を計画するファンも出ている。

香港では8月に公開されるため、ここへの渡航も計画されている。中国のファンも『シン・ゴジラ』を心待ちにしているのだ。

中国でのファン拡大は『GODZILLA ゴジラ』無くしては実現できなかった。そして中国で『シン・ゴジラ』への期待が高まることもなかったと言える。

『GODZILLA ゴジラ』は中国にとって偉大な一歩になったのだ。

## 中国人のゴジラ観

---

『ゴジラ』とは日本人からしてみると、ゴジラは作品によって善にも悪にもなり得る存在という認識だろうか。徹底したヒーローとして描かれることもあれば、圧倒的な破壊をもたらす悪として描かれることもあり、ゴジラを一言で表すことは難しいのである。

中国ではゴジラをヒーローと捉える人が多い様だ。なぜそうなったのか考察していこう。

中央電視台で『ゴジラファイナルウォーズ』が放送されていたことが大きくかかわっているのではなかろうか。

本作は南極で封印から解かれたゴジラが地球侵略兵器として投入された多数の怪獣と戦ってゆくという作品だ。ゴジラは地球を救おうとする意思を持っていなかったが怪獣とひたすらに戦ってゆく姿はヒーローとして見ることも出来る。

そして2014年には『GODZILLA ゴジラ』が公開された。この作品もゴジラがM.U.T.O.を倒したヒーローと捉えることが可能だ。ラストには"怪獣王は救世主か?"というニューステロップが登場したことも、ヒーロー性を際立たせた要因と言えるだろう。

『GODZILLA ゴジラ』の中国公開時、中国のゴジラファンは非ゴジラファンに「ゴジラって悪い怪獣をやっつけるんでしょ?」と言われたという。その反応を示した人は、中央電視台で放送された『ファイナルウォーズ』を鑑賞していたらしく、そのおかげで"ゴジラ=ヒーロー"との考えにたどり着いたようだ。やはり、初めて見たゴジラ映画の影響は計り知れないのだろう。

初めてみたゴジラ映画が『ファイナルウォーズ』ならば、その認識に至ってしまうのは無理はないかもしれない。

諸外国と違って、ゴジラ映画と正式に触れ合う機会が無かった点も"ゴジラ=ヒーロー"という印象を強めたとも言える。アメリカのようにテレビで頻繁に放送されていれば、中国人のゴジラ観が大きく異なった可能性もあるだろう。

2014年は中国でゴジラの知名度が大きく向上した年だ。同時に「ゴジラはヒーローである」と印象付けてしまった年でもある。

ゴジラとは何か。日本人ですら良く理解できていない存在だ。時代により印象が大きく変貌するが故に型に当てはめることが出来ない。

ただ一部の観客からは「良い奴か悪い奴か分からない」との意見も出ているのも事実だ。やはり、ゴジラという物はどの国から見ても形容しがたい存在なのかもしれない。

日本人でも一言で表せない存在。様々な事象を超越したとも言える存在と正式に向き合う日が来たとき、中国人はゴジラに何を見出すのだろうか。

# 大國対虚構

---

12年ぶりの国産ゴジラが公開される。

2016年7月29日の日本公開を皮切りに、台湾と香港、フィリピンなどでの公開も決定した。しかし、映画大國中国での公開は不明だ。

4月13日に『シン・ゴジラ』第一弾予告が公開された。7月18日には第二弾予告が公開され、早速中国にも転載された。日本人でも驚愕した恐ろしいゴジラの姿には中国人も度胆を抜かれたようだ。この異形すぎるゴジラがどのような活躍をみせるのかという期待と議論が飛び交っている。

一部からは「神が帰ってきた」との反応もあり、中国のファンからもゴジラは神聖視されていることが伺えた。

だが同時に、シン・ゴジラの造形を否定的する意見もある。

まだ全貌が分からない作品を考察する姿はどの国も変わらない様子だ。

中国でも話題になっているのは"紫"に発光するゴジラだ。なぜこのような色なのか。かつてない禍々しい発光に中国も恐怖で震えていた。なぜ青ではなく紫なのかと考察が飛び交っているが、その真実を知るには映画を観るしかないのだ。しかし、公開の見通しが立たない中国のファンはやきもきしている。公開国への渡航を計画するのも無理はない状況に追い込まれているのだ。

中国で『シン・ゴジラ』の2016年内公開は難しいと言わざるを得ない。海外映画の年間上映本数が34本に制限されている。2016年は日本映画が既に『BORUTO ボルト -NARUTO THE MOVIE-』、『聖闘士星矢 Legend of Sanctuary』と『ピリギヤル』の3本が公開された。

7月22日からは『映画ドラえもん 新・のび太の日本誕生』が、9月2日からは『寄生獣（前後編を一つにまとめた特別版）』が公開される。夏には『映画ちびまる子ちゃん イタリアから来た少年』も公開予定だ。2016年7月現在に判明しているだけでも2016年内で6本の日本映画が公開される。

6本の日本映画が貴重な上映許可を勝ち取っているために、日本単独で製作されている『シン・ゴジラ』の中国公開は難しい状況に追いやられている。

しかし、2016年6月。中央電視台の映画チャンネルで『シン・ゴジラ』の紹介が行われた。4月に公開された第一弾予告に現地語のナレーションが付加される形での放送になった。

どのような意図で『シン・ゴジラ』を紹介したのかは不明だが中央電視台で紹介されたということは、中国公開に光明が差したといえるだろう。中央電視台は日本で言うNHKのような立ち位置のテレビ局であり、報道は中国共産党の指示で行われるとされている。そのようなテレビ局の映画チャンネルとはいえ、紹介が行われたことは何を意味するのだろうか。

またYoukuに開設された『シン・ゴジラ』紹介ページで中国版タイトルも判明した。『哥斯拉:復活』になっている。。香港タイトルは『真哥斯拉』、台湾タイトルは『正宗哥吉拉』だ。中国タイトルはどれにも当てはまらない。もしかすると中国での公開は現実味を帯びているのかもしれない。

仮に『シン・ゴジラ』が中国で公開された場合は、日本製ゴジラ映画としては史上初の事例となる。2014年のハリウッド版から日本版へ。容姿も大きく異なったゴジラを中国人はどう見るのだろうか。

そして、中国で『シン・ゴジラ』はどのような評価をされるのか。興行収入はどれほどを数字になるのだろうか。

これまで中国で公開された日本映画は大きなヒットにはなっていない。現地で高評価を得た『ピリギヤル』は鳴かず飛ばずだった。

近年の中国映画市場で最大のヒット作となった日本映画は『STAND BY ME ドラえもん』の約104億円だ。日本では約83億円であり中国は日本を上回る結果を残した。『シン・ゴジラ』でも同じ現象が起きるのだろうか。

仮に公開された場合の中国興収は『GODZILLA ゴジラ』の7700万ドルが基準となるだろう。この数字に並ぶのか、はたまた届かないのか。

驚異的な速度で成長する中国映画市場でゴジラは存在感を更に高めることが出来るのだろうか。  
これからの『シン・ゴジラ』と中国映画市場の動向に注目していきたい。

## 参照元

---

Box office Mojo

<http://www.boxofficemojo.com/movies/?id=godzilla2012.htm>

<http://www.boxofficemojo.com/movies/?id=pacificrim.htm>

<http://www.boxofficemojo.com/movies/?id=terminator2015.htm>

<http://www.boxofficemojo.com/movies/?id=transformers4.htm>

<http://www.boxofficemojo.com/movies/?id=mermaid2016.htm>

中国国際報道局

<http://japanese.cri.cn/2041/2016/07/12/181s251297.htm>

百度 哥斯拉吧

<http://tieba.baidu.com/f?kw=%B8%E7%CB%B9%C0%AD&fr=ala0&tpl=5>

Youku 哥斯拉:复活

[http://www.soku.com/search\\_video/q\\_%E5%93%A5%E6%96%AF%E6%8B%89%20%E5%A4%8D%E6%B4%BB?f=1&kb=0402000000000000 & rp=1aoa9gdt82480& rp=1aoa9gdt82480](http://www.soku.com/search_video/q_%E5%93%A5%E6%96%AF%E6%8B%89%20%E5%A4%8D%E6%B4%BB?f=1&kb=0402000000000000 & rp=1aoa9gdt82480& rp=1aoa9gdt82480)

## Report 2

『実録！東宝特撮聖地巡礼黙示録！』

文：ぶなしめじ

# 《第1章 はじめに》

近年、オタク界隈では聖地巡礼なる行為が、にわかにも注目を集めている。現実の街を舞台としたアニメが制作され始めた頃からメディアでも紹介され始めた様に思える。本著を執筆している現在は、茨城県大洗町が注目を浴びており、地域活性に一役買っている。この聖地巡礼という行為の愛好家は、この界隈にも少なからず存在しており、この項では東宝特撮映画関連の聖地巡礼もといロケ地巡り事情について解説していく。

ロケ地巡りに関しては既に関連書籍やBlu-ray特典等でかなりの数が世に紹介されている。この章の最後に、聖地巡礼の参考となる書籍、Blu-ray特典を表でまとめてあるので興味のある方はこちらでも参考にしていきたい。

また、聖地巡礼を語るにおいて、これらのBlu-ray特典やパーフェクションシリーズ等のロケ地ガイド制作に携わった特撮ライターである円山剛士氏の存在にも触れておきたい。氏は平成を代表するこの分野の権威であり、聖地巡礼を語るにおいて円山氏を抜きにしては語れない。Twitterのアカウントは「まるぞー」であり、フォローしていれば新たに検証した聖地巡礼の報告を確認する事が出来るかもしれない。円山氏はつい最近も、ラゴス島の海岸やモゲラが襲撃した町の聖地の検証・特定の他、2016年4月の『シン・ゴジラ』予告第2弾公開時は、公開からわずか1週間で予告編内に登場した聖地を巡礼。いずれも、Twitter上で報告されていた。

この項では、未だ書籍等では公表・検証されていないと思われる聖地で尚且つ、実景と怪獣が合成されているカットをメインに解説していきたい。尚、書籍やBlu-ray特典等で紹介されている聖地については、そちらを参照して頂けるものとする。また、web上にも、独自に調査を重ね、聖地巡礼の成果を詳細に解説している個人ブログ等も存在する為、興味のある方はそれらも参照してみても如何だろうか。

聖地巡礼公式資料				
・Blu-ray特典				
No.	タイトル	収録聖地・ロケ地	収録ソフト	
①	二大都市騒動編	東京都	銀座エリア	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラ<昭和58年度作品>
		大阪府	大阪湾周辺エリア	
			中ノ島エリア	
			OBPエリア 大阪城周辺エリア その他の大阪エリア	
		神奈川県	芦ノ湖	
埼玉県	朝霞中央公民館			
②	超高層ビル激闘編	東京都	高層ビル街 西新宿エリア 新宿駅周辺	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラVSキングギドラ
		神奈川県	川崎市市民ミュージアム	
		静岡県	MOA美術館	
③	臨海都市上陸編	神奈川県	横浜駅周辺 みなとみらいエリア 山下公園周辺	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラVSモスラ
		千葉県	幕張新都心	
④	日本列島横断編	北海道	札幌テレビ塔など	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラVSスペースゴジラ
		青森県	青山ベイブリッジなど	
		宮城県	仙台駅など	
		山形県	山形城など	
		京都府	清水寺など	
		兵庫県	神戸モザイクなど	
⑤	怪獣王消滅編	東京都	渋谷	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラVSスペースゴジラ
			品川	
			東京湾岸ゴジラ観光スポット	
			羽田空港 お台場	
⑥	『ゴジラ対メカゴジラ』 沖繩ロケ地ガイド	沖縄県	今帰仁城跡など	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラ対メカゴジラ
⑦	手塚監督と巡る 機転シリーズ ロケーションガイド	東京都	八景島エリア、東京タワーなど	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラXモスラXメカゴジラ 東京SOS
番外編	日本ゴジラ紀行 小川内ダム編	東京都	小川内ダム	東宝特撮Blu-rayセレクション ゴジラ対メカゴ
・書籍類				
No.	タイトル	出版社		
①	平成ゴジラ パーフェクション	アスキーメディアワークス		
②	ゴジラ 東宝チャンピオンまつり パーフェクション	KADOKAWA/アスキーメディアワークス		
③	ゴジラVSビオランテ コンプリーション	ホビージャパン		
④	平成ガメラ パーフェクション	アスキーメディアワークス		
⑤	ゴジラと東京 怪獣映画でたどる 昭和の都市風景	一迅社/著:野村宏平		

## 《第2章 帰還報告！伊豆・箱根聖地巡礼ドライブ！》

2016年3月、帯津さんの後輩氏（以下、帯津氏）のTwitter上でのとある報告が、極一部の方々からの反響を呼んだ。伊豆・箱根聖地巡礼。神奈川、静岡、山梨をまたぐ富士周辺のエリアは山岳・海岸を利用した特撮作品のロケ地が昭和・平成問わず、数多く存在する。しかし、公共交通機関の利用が困難な地域に点在している為、私は特定済みであった伊豆・箱根周辺の聖地を検証する為、一泊二日のドライブ旅行を企画した。これは、一般人の心には残らない。怪獣特撮マニアの胸の中にだけ残る、私と帯津氏のデブリーフィング〈帰還報告〉である。

2016年3月5日午前10時、小田原駅よりレンタカーで出発。最初に向かった聖地は、神奈川県の実鶴。ここは作中のテロップの如く、『ゴジラFW』でゴジラが上陸した場所である。



国道740号線の「青木園みかん直売所」を200m程南下した付近に、ガードレールが途切れ、海岸を見渡せる地点がある。新轟天号がゴジラを連れて日本へ帰還するカットはここから撮影されたと思われ、カマキラスが降り立った高架も存在している。順調なスタートを切った我々は、次に芦ノ湖・桃源台港へと向かった。

桃源台港への道中、ローソン箱根仙石高原店へ立ち寄る。この交差点は『ゴジラ モスラ キングギドラ 大怪獣総攻撃』（以下、GMK）でバラゴンが横断した場所である。当時の雰囲気そっくりそのままであり、車で芦ノ湖周辺の聖地を訪問する際は、必ず訪れたい。



芦ノ湖桃源台付近はピオランテ花獣形態が出現した場所であり、有名な70mm合成の視点を拝める。ロープウェイで移動すれば『GMK』でゴジラとバラゴンが激闘を繰り広げた大涌谷へ移動できるが、2015年から火山ガスによる立ち入り規制が続いており、規制が解除された暁には必ず訪れたい。尚、芦ノ湖周辺の聖地詳細についてはBlue-ray特典等でも詳細が述べられている。



- ①駐車場付近より。有名な70mm合成カット。BGMが脳内再生される。劇中、34分02秒。  
 ②巨大植物監視本部。自衛官気分のぶなしめじ氏。劇中、51分20秒。  
 ③撮影に使われた棧橋。現在は立ち入り禁止である。右には定期整備中の遊覧船。この遊覧船により、一部アングルからのカットを撮影できなかった。  
 ④巨大植物監視本部に使用された「樹の館」のカレー。野菜の旨味が効いている。

その後、『ゴジラVSビオランテ』で巨大植物監視本部が設置されたレストランにて昼食としてカレーを食べた我々は、芦ノ湖南東部の「成川美術館」付近へ移動し、『三大怪獣地球最大の決戦』の聖地を巡礼した。



『三大怪獣地球最大の決戦』より。  
 劇中、52分05秒付近。奥にゴジラとラドンが合成される。  
 残念ながら富士山はみえない。  
 富士山の霧困気まで劇中通り再現するには、天候や季節など、色々とクリアする条件が多い。

この時点で午後2時過ぎ、我々は今回の旅の中で最も反響を得た『モスラ対ゴジラ』の聖地で初日を締めくくべく、静岡県沼津市へと向かった。我ながら完璧なプランである。

静岡県沼津市の静浦港、この付近は名古屋を破壊し、モスラ成虫を倒し、自衛隊の防衛網を突破したモスゴジが、岩島へ向かう直前に通過した漁村である。書籍「ゴジラと東京 怪獣映画でたどる昭和の都市風景」（著：野村宏平）での、劇中の漁船に「沼津港」の文字が確認できる旨の記述と山の尾根が特定への手掛かりとなった。



- 静岡県沼津市獅子浜付近より。電気店の看板が目印である。  
 大量のエキストラが動員されたシーンである。  
 ①劇中、1時間13分35秒。②劇中、1時間13分40秒。③劇中1時間13分42秒

撮影から50年以上経過し、住宅の様子は様変わりしているが、山の尾根等に当時の面影が残る。



- 静浦港入口周辺より。  
 ①劇中の警官に扮する帯津氏。指差す先にはモスゴジが・・・我々の目には見えている。  
 劇中、1時間14分31秒。  
 ②③共に奥にモスゴジが合成される。劇中印象的な櫓は流石に見当たらない。  
 ②劇中が1時間14分40秒付近のカット。③が1時間15分18秒のカットと思われる。

尚、静浦での検証時、不審に思われたのか近隣住民の男性から声をかけられた。映画のロケ地巡りであると伝えると、その男性はつい最近も自衛隊が撮影協力した大規模なロケが周辺で行われたと語りだした。そのロケは、『シン・ゴジラ』であったのではないかと。樋口監督であれば昭和作品リスペクトの一環として、モスゴジ聖地を『シン・ゴジラ』のロケ地に選定する可能性もゼロではない・・・と、その時の私と帯津氏は深読みした。本著を編集中の現在、既に上陸地点は神奈川県鎌倉市の由比ヶ浜が濃厚となってきているが果たして真相は・・・。7月29日の上映が待たれる。

これにて初日の巡礼を終了し、我々は二日目の検証に備え、伊豆半島南東部の下田市内へ移動。夕食は下田市内の定食屋で済ませたが、土地柄から他の地域よりも金目鯛を豪華に使用した料理が比較的安価に食せる様である。その後、宿では梅酒を片手に地上波初放送の『パシフィック・リム』を鑑賞するという怪獣尽くしの一日を送ることになる。

翌日、『仮面ライダーゴースト』を鑑賞後、宿を後にした我々は吉佐美大浜海水浴場へ向かう。伊豆半島はウルトラシリーズも含め、東宝・円谷作品の海岸関連のシーンの撮影に非常に多く使われている様である。吉佐美大浜海水浴場もその一つであり、南側が『宇宙大怪獣ドゴラ』と『怪獣総進撃』の両作品において、どちらも海岸での銃撃戦のシーンに使用されている。



吉佐美大浜海水浴場の南部の岩が入り組んだ地点。

『怪獣総進撃』と『宇宙大怪獣ドゴラ』の砂浜での銃撃戦が撮影されたと思われる。

①②砂浜中央より、『怪獣総進撃』で小林夕岐子がボートで逃走するカット。

③『宇宙大怪獣ドゴラ』で天本英世がダイナマイト攻撃を仕掛けるカット。

④『宇宙大怪獣ドゴラ』でダイヤモンドを盗んだ若林映子が逃走を試み、哀れにも拳銃で撃ち抜かれるカット。

⑤～⑧ 銃撃戦はカット数が多い。印象的なものを中心に紹介。実際に、散策してみると劇中と位置関係が違うカットもあり、バラバラに撮影したカットを後で編集しているのが実感できる。

『怪獣総進撃』より、①劇中、28分48秒。② 29分09秒。

『大怪獣ドゴラ』より、③1時間11分38秒。④1時間12分46秒。⑤1時間11分28秒。

⑥1時間11分02秒。⑦1時間12分09秒。⑧1時間10分49秒の付近である。

一部のシーンは、吉佐美大浜海水浴場隣のトンネルを抜けてすぐの海岸でも撮影が行われている。



吉佐美大浜海水浴場の隣の海岸。トンネルを通過してすぐである。

①②浜の両端の景観。『怪獣総進撃』で土屋嘉男が倒れていたり、小林夕岐子が手錠を投げたり、久保明演じる主人公がその手錠を掛けられたりしていた場所。

③浜へ降りる階段のすぐ脇。小林夕岐子が出てきた洞窟の名残か。

④②のさらに奥の地点。①②の後で、秘密警察が駆けつけてくる辺り。

『宇宙大怪獣ドゴラ』のラストで主人公一派が強盗団を追い詰めたのもこの辺りか。

①劇中、27分09秒。②劇中、27分43秒。③劇中、27分07秒。④劇中、27分57秒。

また、吉佐美大浜海水浴場北側の岩場では『モスラ対ゴジラ』において主人公一行と小美人がモスラの卵の孵化を見守るシーンに使用されている。今回の旅行の準備に際し、映像資料を観ながら某地図サイトで海岸線を散策し続ける中で偶然にも発見できた聖地である。

ちなみに、この岩場から砂浜方向を向くと、『帰ってきたウルトラマン』最終話で郷秀樹が地球を去るカットに非常に近い雰囲気になる。(実際のロケ地は隣の入田浜で撮影されたとの事である。)



吉佐美大浜海水浴場の東端の岩場。

①気分は宝田明の帯津氏。劇中、主人公達の手前にある岩も現存。

ただし、小美人が映るカットでは合成に差し替えられている。

②③背後の崖や岩の形も一致。①②③は劇中、1時間08分44秒付近から度々登場する。

④反対側の風景。劇中、藤木悠が車で迎えに来る辺りである。劇中、1時間17分08秒。

⑤団時朗の真似をして悦に浸る帰マン厨心なしめじ。団時朗とは似ても似つかない。

スーツの上着を脱いでいる点も減点である。

その後、車で15分程の位置にある外浦海岸へ移動、『サンダ対ガイラ』でサンダが地引網にかかるカットが撮影できる。間宮博士が漂着した漁船を調査するシーンもこの付近にある入り江である。この聖地は、書籍「ゴジラと東京怪獣映画でたどる昭和の都市風景」(著:野村宏平)にて明記されていた。この書籍は1950~60年代の東宝特撮作品の聖地について、非常に詳細な検証が行われており、東宝特撮聖地巡礼者必読の書籍である。



①外浦海水浴場より。『フランケンシュタインの怪獣 サンダ対ガイラ』でガイラが地引網にかかるカット。岩の形が当時のままである。劇中、13分26秒。

②海水浴場付近の入り江。劇中よりもひらけた印象を受ける。劇中、14分34秒。

その後、『モスラ2 海底の大決戦』にて登場する下田プリンスホテルの撮影に向かったものの、劇中のカットは航空写真もしくは周辺の山岳からのアングルが使用された様で、劇中同様の撮影は頓挫してしまった。調査不足が招いた結果であり、今回の旅で唯一の空振りである。

下田プリンスホテルでの無念を堪え、我々はその後、石廊崎と米崎港で『ガメラ 大怪獣空中決戦』の聖地を巡礼した。

石廊崎はギャオス幼体が襲撃する男島の商店である。看板の「みふね食堂」でweb検索する事で特定できた。劇中では複数の店舗が立ち並んでいるが、現在は大半が閉店し、解体されてしまった店舗も多い。思い切って「みふね食堂」の店主に当時の事を尋ねてみると、何と幸運にも生き証人であった。店主は懐かしむかの様に当時の思い出を語ってくれた。公開当時、『ガメラ 大怪獣空中決戦』を観た静岡某所のシャッター扉を取扱う業者の小学生の息子が、「みふ

ね食堂」のシャッターが本当に破損したと思い込み、父親に「みふね食堂」へシャッター扉を売り込みにいく様にせかしたらしい。（「みふね食堂」が石廊崎である事も知っていた様である。）なかなか、商魂たくましい小学生である。公開当時に小学生という事は、本著を書いている我々と同世代であるが、彼は今どこで何をしているのだろうか。我々同様に、未だに怪獣映画にうつつを抜かしているのだろうか・・・。



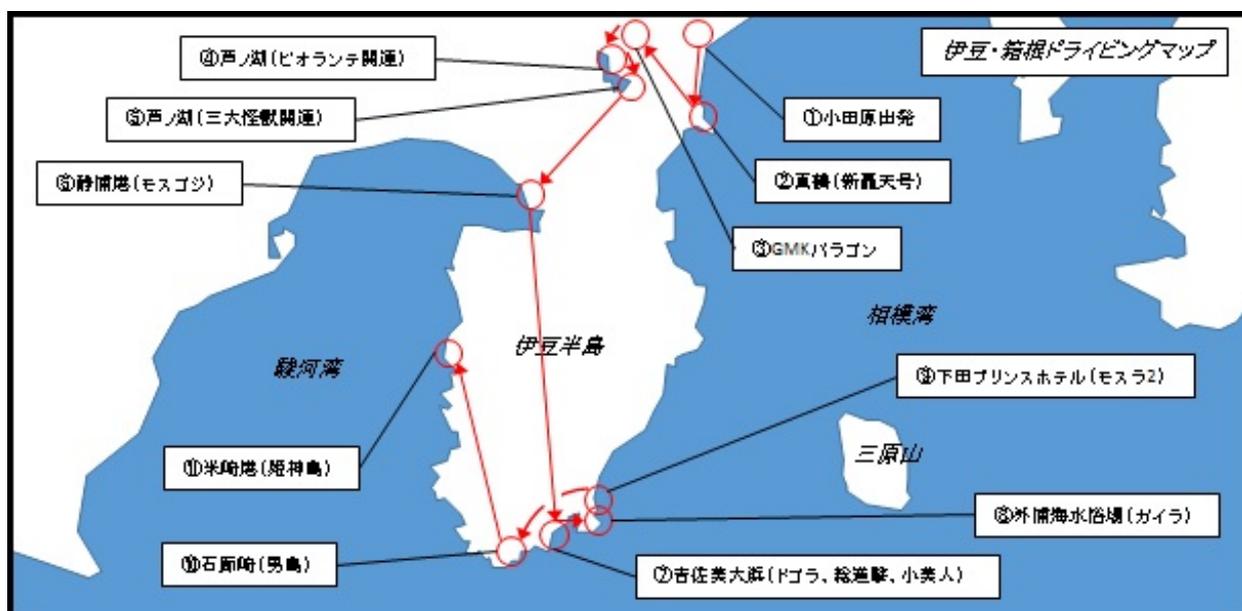
①市販のギャオス人形を吊るして劇中再現。劇中、15分30秒付近。  
 ②～⑤20年が経ち、店舗や家屋の数や形は変わっているが、雰囲気は変わらず。既視感溢れる電信柱もそのまま。  
 ②15分8秒。③15分13秒。④15分31秒。⑤15分33秒。

米崎港は物語序盤の舞台である姫神島のロケ地であり、鳥類学者の長峰と福岡県警の大迫が訪れた当時の風景を残している。尚、場所については書籍「平成ガメラパーフェクション」内にて米崎港であると明記されていた。



①～③こちらも既視感溢れる風景。倒壊した家屋のセットがあった場所は、現在も空き地の様である。劇中、10分45秒付近である。

これにて一泊二日に渡る聖地巡礼ドライブは終了。合計10作品にも及ぶ聖地を巡ることができた。伊豆・箱根・富士山周辺には未だ特定されていない聖地が多いと思われる。今回の報告が、聖地巡礼者達の今後の活動に貢献できれば幸いである。



## 《第3章 今だから評価したい！トライスター版GODZILLAの聖地！》

突然だが、あなたの「アメリカ版ゴジラ」に対する評価は如何なものだろうか？また、「アメリカ版ゴジラ」と聞いて連想するのは“どちら”のゴジラだろうか？2014年版ゴジラ公開時、2014年版と1997年版、それぞれの監督や製作会社にちなんで2014年版を「レジェゴジ」や「ギャレゴジ」、1997年版を「トラゴジ」や「エメゴジ」とファンは呼び分けている動きがみられる。

1997年版ゴジラ、つまりトラゴジは公開時から評判は悪かった。ゴールデンラズベリー賞のワーストリメイク賞とワースト助演女優賞受賞という酷評ぶりである。その最たる原因は、イグアナモチーフの細見なゴジラのデザインであった様に思う。一時期、黒歴史化していた気さえする。実際、トラゴジの監督であるローランド・エメリッヒ監督の映画「ホワイトハウスダウン」の予告編では、監督の代表作から『GODZILLA』は消えていた記憶がある。（奇しくもレジェゴジとほぼ同時期の公開であった。）

しかし、レジェゴジ公開後、各自が求めるゴジラ像や演出の違いにより、にわかにトライスター版ゴジラを再評価する動きがある様に思う。この章では、そんなトライスター版GODZILLAの聖地を、劇中映像とDVDコメンタリー、そして某大手地図サイトを駆使して分析すると共に、その魅力にも迫っていきたいと思う。

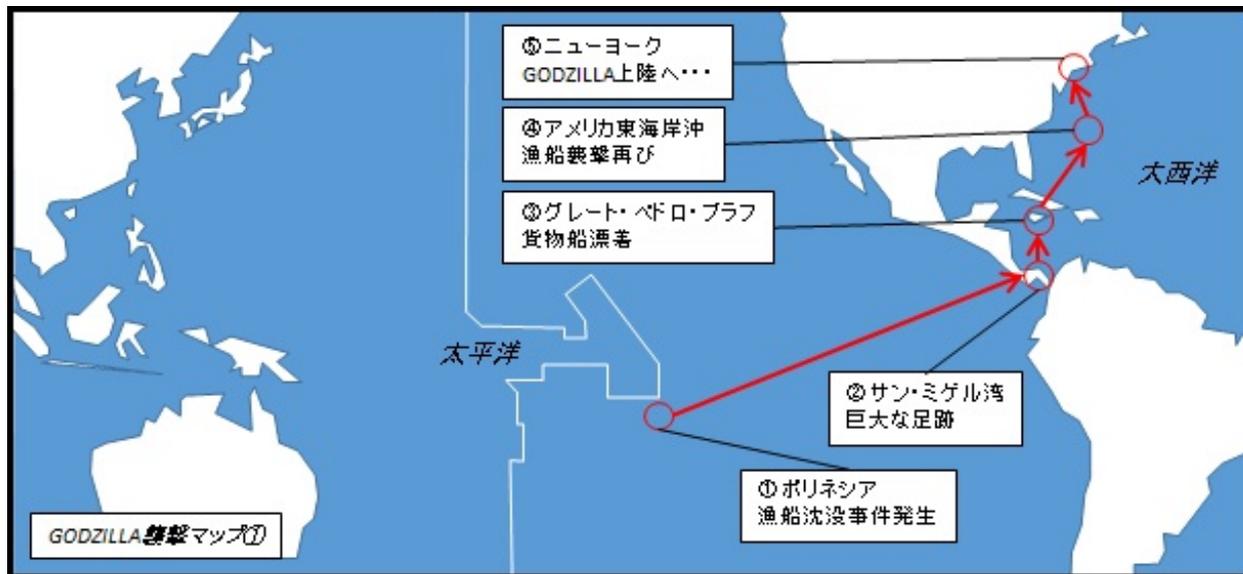
### ・物語序盤

まず、物語はフランス領ポリネシアでの核実験から始まり、その周辺では謎の漁船沈没事件が発生する。余談だが、漁船の危機を知らせるモニターの警告メッセージは「ABUNAI」である。また、時を同じくしてチェルノブイリでは主人公ニックがミミズを採取中にゴジラ調査隊にスカウトされる。このシーンはロサンゼルスで撮影され、背景に模型や写真を合成しているとの事。

### ・事件発生からニューヨーク上陸まで

そして、漁船沈没事件に端を発する怪事件の調査が始まる。沈没した漁船の生存者が収容されているのはポリネシアのタヒチ島パペーテ。病院内はソニーのスタジオで撮影されたとの事。

そしてパナマのサン・ミゲル湾には巨大な足跡が残され、ジャマイカのグレート・ペドロ・ブラフには巨大な爪痕を残した船舶が漂着。物語の舞台は太平洋の中央から徐々に東へと移動していく。ここまでの屋外ロケはハワイで行われたらしく、オアフ島のクアロアランチには未だに足跡が残されており、観光もできる。この周辺は、『ジュラシックパーク』等のハリウッド映画定番のロケ地らしく、日本でいうところの箱根・伊豆周辺の様な存在である。そして、アメリカ東海岸沖で再び漁船が襲撃され、ついに物語の舞台はニューヨークへ移行する。



### ・GODZILLA上陸！

場面は雨のニューヨーク。オーディオコメンタリーいわく、記者達が会話するレストランはロサンゼルスで閉店したレストランを改装して使用しているらしく、作中の街角のシーンもロスでの撮影がかなり多いらしい。

桟橋で釣りをする老人の竿に巨大な生物がかかる。この老人、日本でいうところの沢村いき雄である。撮影は漁船沈

没のカットと同じく、フォールズレイクで行われたとコメントで述べられている。フォールズレイク、日本でいうところの東宝大プールである。ここでゴジラが襲撃した魚市場は看板から、ニューヨーク州はブロンクスにある「SMITTY'S FILLET HOUSE」周辺と思われる。この魚市場、現在は閉鎖、解体されている様である。我々がイメージするニューヨークよりは思ったより北東部に位置している。

#### ・マンハッタン島上陸

そして、ゴジラはマンハッタンに上陸する。海沿いの道路へ上陸カットがあるが、ここはマンハッタン島南端を川沿いに走る高速道路「フランクリン・D・ルーズベルト・イースト・リバー・ドライブ」通称FDRドライブである。先程の地点からイースト川を南下してきたものと思われる。終盤に登場するブルックリン橋も確認できる。

#### ・市長の演説に殴り込み

マンハッタンに上陸したゴジラは再び魚市場を襲撃した後、エバート市長の演説に割り込みする。場所はウォール街のフェデラルホール。観光地としても有名な場所である。

#### ・アニマル危機一髪

異変を察知したカメラマンのアニマルはゴジラを撮影しようと追跡し、あわやゴジラに踏みつぶされそうになる。印象的なこのカットはグランド・セントラル・ステーション西側の通りである。某大手地図サイトでその地点を確認すると、雨天の写真があり、まさに劇中そのものの雰囲気を拝むことができる。

その後、ゴジラは「MetLife」のロゴのあるグランド・セントラル・ステーション南側のビルに風穴を開けて姿を消す。

#### ・ゴジラ対策本部設置

ニューヨーク中がパニックとなり、市民がNYと隣接するニュージャージーやロングアイランドへ避難を始める。一方州軍が出動し軍移動司令部を設置。司令部が設置された場所はNYのビル街との位置関係から、マンハッタン島西側を流れるハドソン川を挟んだ対岸。モリス運河付近に設置されていたと思われる。

#### ・第1回ゴジラ撃退作戦

ゴジラが地下鉄に潜み、魚が主食である事を掴んだ主人公たちは魚を餌にゴジラをおびき寄せるというシンプル極まりない作戦を決行。マディソン・スクエア・パーク西側の交差点で実施される。まさに、往年の怪獣映画を彷彿とさせる展開である。

ゴジラは狙い通り魚の臭いにつられ、交差点の北側、ブロードウェイ周辺の地下から再び姿を現す。やはり、グランド・セントラル・ステーション付近の地下に潜んでいた様である。

交差点中央でフラット・ライアン・ビルを背にしたゴジラのカットは有名である。その後、ゴジラは軍の攻撃をかわして再び姿をくらます。その際に、前述のフラット・ライアン・ビルやクライスラービルが流れ弾で崩落してしまう。

この時、ヘリ部隊を全滅させたゴジラが寄り掛かり雄叫びを上げるビルは、崩落したはずのクライスラービルの様に見えるが、似た雰囲気のエンパイヤビルであろうか？クライスラービルはその後、オードリーとアニマルが地下鉄に忍び込む直前のカットでも背景に映っており、コメントでは合成でクライスラービルを付け足した旨の発言がある。

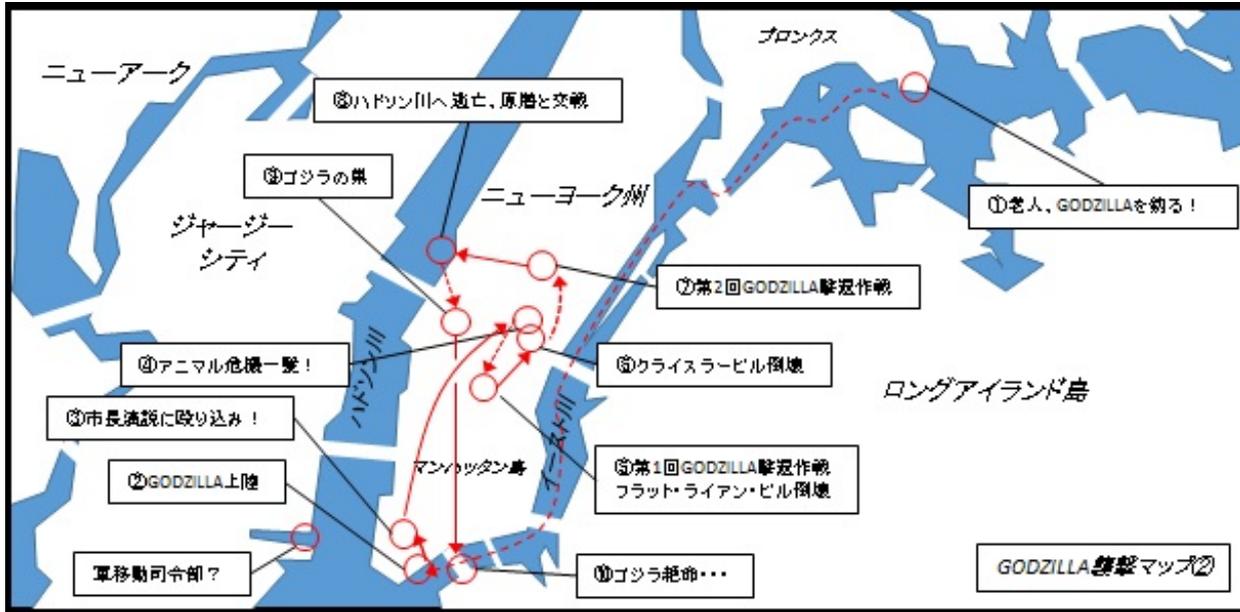
#### ・第2回ゴジラ撃退作戦

ゴジラを取り逃がした上、街に損害まで与えてしまった軍は再度、前回同様の作戦でゴジラ討伐を目論む。今回の作戦実施地点は自然保護区も存在するセントラルパークである。パーク南東のグランド・アーミー・プラザ付近で対峙するゴジラと軍。罠に勘付き逃走するゴジラ。ゴジラは西方向へ突き進み、高速道路を飛び越えてハドソン川へ飛び込み、原潜と交戦する。

#### ・マディソン・スクエア・ガーデン～ブルックリン橋

一方、主人公一行はマディソン・スクエア・ガーデンのゴジラの巣を破壊することに成功。そして遂に、怒り狂う親

ゴジラとのカーチェイスの末、ブルックリン橋でゴジラを撃退する事に成功する。この辺りの撮影は、セット撮影やLAでのロケがメインとの事である。



この作品では、ゴジラは通常兵器によって撃退される。この点も、ファンからの不評に一役買っていると感じる。これに関しては、富山省吾氏は日本のゴジラは「人類よりも強い存在」であるのに対し、アメリカのゴジラは「人類が乗り越えるべき存在」として描かれている点に、価値観の違いを感じた旨のコメントを『ゴジラ2000ミレニアム』の劇場パンフレットにて述べている。（これが、日本製ゴジラ復活の決定打へ繋がったとの事であるが、その復活第一弾である『ゴジラ2000ミレニアム』もまた、ファンから長きに渡り賛否を生む作品であるのは、また別のお話である。）

このトライスター版ゴジラ、ゴジラ映画とは認めないが怪獣映画としてはかなり面白いといった評価を最近耳にする。実際、タイトルがゴジラでなければ「これだから日本のゴジラは・・・」と逆に日本版が批判されていたはずという意見も聞く。公開年には、サターン特殊効果賞も受賞しており、作品の完成度の高さは当時から認められていた様である。

実際、この記事の為に約20年振りに鑑賞した本作であるが、非常に楽しめた。科学者、記者、軍人に分かりやすい作戦。ゴジラ映画というか特撮映画のツボはかなり押さえている。これを機に、皆さんも今一度トライスター版ゴジラを復習してみては如何だろうか。

## 《第4章 平成モスラ信者に捧ぐ！平成モスラ3部作の聖地！》

平成モスラシリーズは非常に味わい深い作品である。私は少年時代にリアルタイムで劇場鑑賞したが、当時は『ゴジラVSビオランテ』や『ゴジラVSメカゴジラ』の様なミリタリー色やSF色の強い作品を好んでいた。しかし、大学生や社会人になって再度鑑賞してみると『ゴジラVSモスラ』や平成モスラ3部作の評価が自分の中でじわじわと上がっているのを感じる。特に、家族愛メインのファンタジー色あふれるストーリーが非常に微笑ましい。また、モスラの極彩色振りや多彩な光線技の派手さもそれまでとは一線を画し、敵怪獣の凶悪で重厚なデザインも素晴らしい。そんな平成モスラの聖地も、ほんの思い付きの企画ではあるが分かる範囲で調査してみた。

### ○モスラ1の聖地

山林や室内、住宅街のシーンが多く、特定は困難なカットが多いと思われたが、調べてみると意外と特定できたので下記に箇条書きでまとめる。

#### ・東京都 多摩センター駅周辺

エリアスを乗せたフェアリーが、主人公達のいる多摩ニュータウンへ向かうカットで多摩センター駅周辺が登場している。空撮にしては高度が低く、推測するに朝日生命保険相互会社多摩本社ビルA棟の屋上からのカットではないだろうか。

#### ・モスラ幼虫が上陸する岬

北海道釧路郡にある来止臥（キトウシ）キャンプ場付近の海岸の様である。デスギドラが暴れている紋別からは200km程離れている。

#### ・北海道 山彦の滝

ダム崩壊後に主人公達がいる滝は、物語の舞台である紋別からほど近い、遠軽町丸瀬布にある山彦の滝と特定できた。

#### ・屋久島 安房川

モスラ幼虫が屋久島に上陸した地点。安房川橋から上流を向いたカットである。劇中で川原にみえる場所は、現在は家屋が建っている様である。撮影後に建てられたのか、あるいは編集で消されているのか・・・？

#### ・屋久島 千尋滝

モスラ幼虫が屋久島上陸後に横断する滝は千尋滝と呼ばれ、有名な観光スポットらしい。この直後の山中を移動するカットの特定は流石に諦めたが、地元民等が見れば分かるのではないかと思われる。

#### ・東京都 田町駅周辺

屋久島で羽化した新モスラが通過している。田町駅東口周辺、角度的にグランパーク付近の建物の上層階からのカットを反転していると思われる。聖地巡りを行うと稀に、劇中では風景が反転されているカットに出会うことがあるが、演出や編集の都合だろうか？

このグランパーク周辺の施設は『モスラ'96』公開の年に竣工された様で、当時はホットなスポットだったのかもしれない。



田町駅東口からの景色。中央右寄りにある三菱UFJ銀行田町支店ビルを見ると劇中のカットは反転されているのがわかる。  
ちなみに、西口側から見た三菱UFJ銀行田町支店ビルは『ゴジラ』(84年版)にて登場している。

・北海道 大平高原

一本だけ生えた木が特徴的なラストシーンの草原。山彦の滝と同じく、場所は遠軽町丸瀬布にある大平高原である。

○モスラ2の聖地

ロケ地のメインが石垣島周辺の為、なかなか訪れる機会が少ない。これを読んだ石垣島の怪獣映画クラスタは是非とも検証して頂きたい。

・石垣島小学校

主人公達の学校。中盤でダガーラに襲撃され、ガッツリ破壊される。

・洋二と航平が駆ける路地

放課後、洋二と航平が海へ向かうカットのT字路は地方検察庁東側の路地の様である。建物の奥には、港にあるサザンゲートブリッジが見えている。

・ベーレムに浸食される海岸

長崎オランダ村、桂浜（高知県）、下田プリンスホテル（神奈川県）、恋路ヶ浜（愛知県）が登場している。

・星のや 竹富島

竹富島にある地域特有の昔ながらの赤瓦の家屋が残るリゾート。エンドクレジットの撮影協力で名前が挙がっている。詳細は特定できなかったが、ニライ・カナイの浮上直後やラストの白い砂浜のカット等で使用されていると思われる。

。

・石垣港

ダガーラが上陸した港と思われるが具体的な場所は特定できなかった。映画公開後に開発が進んだ様で、劇中当時とは景観が変わっている可能性が高い。

・石垣市内

ダガーラが石垣の町を襲撃するカット。石垣市民会館周辺の道路と付近の公園にある平和の鐘からのカットが確認できる。小学校に近づく引きのカットはホテル日航空八重山のレストランからの景観と思われる。

・石垣空港とマイキャッスル石垣

インファント島から飛来したモスラが石垣上空を通過するカット。赤瓦の民家は特定できなかった（前述の星のや竹富島であろうか？）。石垣空港も通過しているが、現在は新石垣空港の整備に伴い、当時の建物は残っていない可能性がある。その後通過する赤瓦の家屋とマンションが隣接した町並みは、石垣市石垣60番地のマンション「マイキャッスル石垣島」前の道路からのカットである。「石垣島 マンション」で画像検索することで特定できた。

○モスラ3

シリーズの中では比較的都市破壊シーンが多く、Blu-ray特典で述べられているカットも存在する。しかし、前2作同様に山間部などの特定困難なカットも多い。

・山梨県富士吉田市のテロップが表示されるシーン

山梨県富士吉田市、総合グラウンド付近の道路に富士山との位置関係や森、田畑の雰囲気似通った道路がある。次の車内のカットの車窓とも山の尾根、建物が一致する。

流れ星が山に振るカットは特定できなかったが、遊園地のカットは富士急ハイランドでの撮影と思われる。

・大阪襲撃

福井県で覚醒したキングギドラは手始めに大阪を襲撃する。

大阪ビジネスパーク周辺のクリスタルタワー、大阪東京海上日動ビル、梅田駅付近の梅田スカイビルが登場している。各所に小学校が襲撃されるカットも挿入されるが、特定はできなかった。



・京都通過

キングギドラとフェアリーモスラに乗ったエリアス姉妹が東寺の五重塔を通過している。ちなみに、劇中では映らないが、東寺周辺には映画館「みなみ会館」が存在する。近年、みなみ会館では年末の怪獣映画オールナイト上映やゴジラ誕生祭等、定期的に怪獣映画をリバイバル上映するイベントが開催されている。怪獣クラスタの皆さんは、京都の聖地巡礼を兼ねて一度は訪問してみても如何か。

・名古屋蹂躞

大阪・京都を通過したキングギドラはそのまま東へ進み、名古屋を襲撃する。この辺りから、都市を破壊する描写がみられる。名古屋駅のJRセントラルタワーズを破壊し、そのまま東へ桜通を通過している。その後、テレビ塔も倒壊の憂き目にあっている。



・富士吉田市周辺

富士吉田市上空を旋回するカットは特徴的な看板や建物がなく、特定困難である。周辺にある小学校からのカットであろうか？

・都庁周辺

富士樹海でモスラを迎撃したキングギドラは新宿周辺も襲撃。都庁東側、京王プラザホテル前付近の歩道からのカットが存在する。その後、再び物語の舞台は山中や草原となり、聖地の特定はできなかった。



付近の階段でもエキストラが逃げ惑うカットが撮影されている。  
モスラ3以外にも『ゴジラvsキングギドラ』や『ゴジラ』(84年版)で登場したほか、『ウルトラマンレオ』のブラック指令も訪れているエリアである。

シン・ゴジラが注目を浴びる 2016年は、平成モスラ生誕20周年の年でもある。リアルタイム世代が社会人となり、Twitter上では平成モスラ信者なる派閥も存在する昨今、平成モスラの再評価は確実に進んでいる。

## 《第5章 情報求む！未特定の気になる聖地！》

ここでは、未特定であるが個人的に非常に気になる聖地を列挙していく。もし、情報をお持ちの方が居れば、ご連絡頂ければ助かります。検証結果で報告頂ければ、大歓迎です。Twitterに投稿すれば、一部の方々からの反響も確実である。

### ・サラジア生命工学研究所

『ゴジラVSビオランテ』にて序盤で登場する施設。どこかの建物の屋上の様な場所で撮影されており、研究棟や砂漠が合成されている。つくば近辺との噂も聞いたが詳細は不明。DVDのメイキングで、砂漠が合成される前の映像を確認することができる。

### ・ギドゴジの牧場

『ゴジラVSキングギドラ』でゴジラが通過する北海道の牧場のカット。非常に印象的なカットではあるが、ファンの間では未だ特定されていない様子である。関連書籍等では恵庭（新千歳空港～札幌の間）の近辺で撮影されたと述べられている。現在も変わらぬ姿で残っている事を願うばかりである。

因みに、ゴジラが上陸した岬は、劇中では網走付近となっているが、撮影に使用されたのは東室蘭にあるチキウ岬灯台である。現在、劇中のアングルからの撮影は不可との情報もあるが、Web上にはほぼ同じアングルからの写真が存在している。また、この後のカットで三枝未希がゴジラを見つめる屋上は、東宝スタジオの屋上との事である。

### ・アドノア島

『ゴジラVSメカゴジラ』序盤の舞台。ロケ地は御殿場や三宅島で行われたとの情報がある。特に、ゴジラが上陸するカットの撮影場所は特定したいものである。

### ・バース島

こちらは『ゴジラVSスペースゴジラ』にてゴジラが上陸する島。バース島の聖地は沖永良部島の沖泊海浜公園と判明しているが、交通費や時間の都合で巡礼は非常にハードルが高いと思われるのでここで紹介した。これを読んだ方の中に、近々旅行に行く予定があったり、比較的近い地域に在住だったりする方がおられたら、是非ともTwitterで検証結果を報告して頂きたい。

### ・モゲゴジ九州縦断

『ゴジラVSスペースゴジラ』。この作品は、スペースゴジラが日本を縦断したり、ゴジラが九州を縦断したりするので、日本各地に聖地が大量に散らばっているのが特徴である。

鹿児島から上陸したゴジラが熊本、大分、福岡と進行するが、具体的な場所に関しては有名なスポットが多く、既にファン達により特定されている。しかし、交通費等の関係により、巡礼のハードルは比較的高めと思われる。

また、熊本免許センターは2015年に解体され、2016年の震災の影響により熊本城は一部立ち入り禁止エリアができている。さらに、鹿児島湾に出現したゴジラのカットが撮影された鹿児島市の城山観光ホテルの客室は、1泊3～30万円の高級ホテルであり、制覇は困難な状況である。

### ・ミレゴジの発電所

『ゴジラ2000 ミレニアム』にて、根室に上陸したゴジラが襲撃する発電所。発電所を襲撃する下りは、根室付近で撮影されたカットではない可能性がある。エンドクレジットに名の挙がっている神奈川県宮ヶ瀬ダム工事事務所がかなり怪しいが詳細は不明である。

また、発電所を襲うゴジラを主人公一行が傍観するシーンの道路も特定できていない。このカットは帯津氏お気に入りのカットである為、特定したいところである。劇中で一瞬映るバス停か標識の様なものが、手掛かりになるのではと思われるが・・・。

ちなみに、宮ヶ瀬ダム工事事務所はダム完成後に相模川水系広域ダム管理事務所と名称が変更されている。

#### ・巨大U.F.Oとマンション

同じく『ゴジラ2000 ミレニアム』より。西新宿へ向かう巨大U.F.Oが通過したマンション。エキストラとは別撮りされたカットとの報告あり。特徴的な外観の他、側面の『3』が手掛かりか？

#### ・ゴジラ、お台場の上陸

『ゴジラxメガギラス』でゴジラがお台場に姿を現した最初のカット。ゴジラの手前に「船の科学館」が見える。台場駅付近からのカットと思われるが……。因みに、この直後のグリフォンに向かって熱線を吐くカットは、フジテレビ球体展望台の出口エレベーターへ向かう通路から非常に近いアングルのカットが撮影できる。晴天の日に巡りたい聖地である。

#### ・富士周辺工場地帯

『GMK』にて焼津に上陸したゴジラが、清水市に向かう道中で破壊した工場。富士山をバックとしており、新富士周辺と予想するが特定できていない。

#### ・清水中央総合病院

『GMK』でゴジラに破壊される清水市内の病院。外観のモデルになった建物の詳細情報を求める声を Twitter 上で見かけたので、ここに記しておく。

#### ・大涌谷～横浜間

同じく『GMK』より。夜間、箱根から東へ進むゴジラが戦闘機を撃墜するカットや、自転車に乗った新山千春と並走するカット。画面から得られる情報は少ないが特定したいカットである。

#### ・FWミニラ関連

『ゴジラ FINAL WARS』より。富士山麓での、猟師の田口左門と孫の健太とミニラの2人+1匹が登場するカットの聖地。町を破壊するゴジラを遠方から見つめるカットや、頭上をX星人の小型U.F.Oが通過していくカットが気になるところである。

## Report 3

『みえる！わかる！怪獣映画なんでもデータベース』

文：帯津さんの後輩

# 第1章：ゴジラシリーズ 熱線放射シーン数

ゴジラを象徴する技、「熱線」。

その形状や威力が作品によって異なることはゴジラファンの間では共通認識だろう。

しかし使用数という観点から語られることは多くない。

仮にあるとしても、「VSシリーズは熱線・光線だらけ」「ミレニアムシリーズは使用頻度は低いが破壊力が高い」など、感覚やイメージで語られることが多い。

そこで本項では『ゴジラ(1954)』～『GODZILLA ゴジラ』までの30作品を対象に「熱線放射シーン数」をカウントし、その結果を元に分析・考察を行った。なお、「熱線放射シーン数」のカウントにあたり下記6つの条件を設定した。

条件①：劇中における実時間(リアルタイム)での放射シーンは「本編中」にカウント

条件②：OP・ED、回想シーン、記録映像での放射シーンは「その他」にカウント

条件③：1シーンで複数回放射した場合は分けてカウント

条件④：1回の放射でシーンが分かれているものは1回とカウント

条件⑤：実時間として使用されたバンクシーンは「本編中」にカウント

条件⑥：体内放射は参考として「合計」にカウントしない

では、さっそくカウント結果をご覧ください。

【表1：ゴジラ熱線放射シーン数 一覧】

	作品名	脚本家	特撮担当	本編中	その他	体内放射数 ※参考	合計
昭和シリーズ	ゴジラ(1954)	村田武雄 本多猪四郎	円谷英二	11	0	0	11
	ゴジラの逆襲	村田武雄 日高黎明	円谷英二	9	1	0	10
	キングゴジラ対ゴジラ	関沢新一	円谷英二	12	0	0	12
	モスラ対ゴジラ	関沢新一	円谷英二	23	0	0	23
	三大怪獣 地球最大の決戦	関沢新一	円谷英二	5	1	0	6
	怪獣大戦争	関沢新一	円谷英二	8	0	0	8
	ゴジラ・エピラ・モスラ 南海の大決闘	関沢新一	円谷英二	6	0	0	6
	怪獣島の決戦 ゴジラの息子	関沢新一 斯波一絵	有川貞昌	14	0	0	14
	怪獣総進撃	馬淵薫 本多猪四郎	有川貞昌	10	0	0	10
	ゴジラ・ミニラ・ガバラ オール怪獣大進撃	関沢新一	本多猪四郎	12	1	0	13
	ゴジラ対ヘドラ	馬淵薫 坂野義光	中野昭慶	23	0	0	23
	地球攻撃命令 ゴジラ対ガイガン	関沢新一	中野昭慶	4	1	0	5
	ゴジラ対メガロ	福田純	中野昭慶	10	0	0	10
	ゴジラ対メガゴジラ	山浦弘靖 福田純	中野昭慶	6	0	0	6
メガゴジラの逆襲	高山由紀子	中野昭慶	7	3	0	10	
VSシリーズ	ゴジラ (1984)	永原秀一	中野昭慶	8	0	0	8
	ゴジラVSビオランテ	大森一樹	川北紘一	40	3	1	43
	ゴジラVSキングギドラ	大森一樹	川北紘一	25	0	1	25
	ゴジラVSモスラ	大森一樹	川北紘一	35	0	2	35
	ゴジラVSメガゴジラ	三村渉	川北紘一	37	3	1	40
	ゴジラVSスペースゴジラ	柏原寛司	川北紘一	26	0	0	26
	ゴジラVSデストロイア	大森一樹	川北紘一	16	4	5	20
ミレニアムシリーズ	ゴジラ2000ミレニアム	柏原寛司 三村渉	鈴木健二	7	0	1	7
	ゴジラ×メガギラス G消滅作戦	柏原寛司 三村渉	鈴木健二	10	1	0	11
	ゴジラ・モスラ・キングギドラ 大怪獣総攻撃	長谷川圭一 横谷昌宏 金子修介	神谷誠	17	0	0	17
	ゴジラ×メガゴジラ	三村渉	菊地雄一	14	0	0	14
	ゴジラ×モスラ×メガゴジラ 東京SOS	横谷昌宏 手塚昌明	浅田英一	15	0	0	15
	ゴジラ FINAL WARS	三村渉 桐山勲	浅田英一	19	22	1	41
海外作品 ※参考	GODZILLA	ディーン・デヴリン ロランド・エメリッヒ	不明	0	0	0	0
	GODZILLA ゴジラ	マックス・ボレンス フランク・ダラボン デヴィッド・キャラハム ドリュー・ピアース デヴィッド・S・ゴイヤー	不明	3	0	0	3

## <熱線放射シーンが最も多いゴジラ作品は...?!>

表1の総合データより熱線放射シーン数のランキング付けを行った。

まずは、「本編中」と「その他」の数値を合算した「合計」のランキングからご覧いただく。

【表2：放射シーン数ランキング(作品別/合計)】

	作品名	熱線シーン数(合計)
1位	ゴジラVSビオランテ	43
2位	ゴジラ FINAL WARS	41
3位	ゴジラVSメカゴジラ	40

表2の通り、最も熱線放射シーンが多い作品は『VSビオランテ』となった。

浦賀水道沖におけるスーパーXIIとの海上戦で大きくカウントを伸ばし、他作品を大きく引き離れた。

ファイヤーミラーによる熱線増幅反射に対しても決して引かず、ミラー部分を溶かすまで熱線をぶつけ続ける姿はまさに怪獣王。押してダメなら押しまくる。それがゴジラなのである。

2位にランクインしたのは、OPで大量の熱線バンクシーンが使用された『ファイナルウォーズ』。

「その他」のカウント数が「本編中」を上回る唯一の作品となった。

オープニング編集の担当者は相当な熱線好きだったと思われる。

3位にランクインしたのは、これまた増幅反射が印象に強い『VSメカゴジラ』。

NT-1装甲により熱線を完全に無効化することに成功したものの、復活したゴジラのハイパーウランウム熱線によってド派手に爆発炎上したことはご認識の通り。熱線の対策案として増幅反射が挙げられた場合は全力で否定することをおすすめする。

では次に「本編中」のみに限った結果をご覧いただく。

【表3：放射シーン数ランキング(作品別/本編中)】

	作品名	熱線シーン数(本編のみ)
1位	ゴジラVSビオランテ	40
2位	ゴジラVSメカゴジラ	37
3位	ゴジラVSモスラ	35

表3の通り、「本編中」のみににおいても『VSビオランテ』が最多という結果となった。

合計ランキングでは3位だった『VSメカゴジラ』が2位に浮上し、新たに『VSモスラ』が3位にランクインした。

『VSモスラ』に限らず、モスラが登場する作品は熱線放射シーンが多くなる傾向にある。

『モスラ対ゴジラ』では昭和シリーズ最多の23回であり、ミレニアムシリーズのカウント数上位3作品の全てにモスラが登場している。

蛾を落とす殺虫スプレーのような感覚で熱線を吐きかけていたのだろうか。

逆にキングギドラ登場作品においては熱線シーン数が非常に少ないことが見えてくる。

ゴジラにとってギドラとは熱線を使うまでもない相手.....ということなのだろうか。

あるいは怪獣のカンで熱線の効果が薄いことに気付いていたのかもしれない。

.....キングギドラの名誉を守る為にもこれ以上の言及は控えることにする。

<本当にVSシリーズは熱線放射シーンが多いのか？>

次にシリーズ別の結果をご覧ください。なお、放射シーン数1回以下は端数切り上げとしている。また、海外作品はデータが少ない上、明確なシリーズ分けが無いため対象外とした。

【表4：放射シーン数ランキング(シリーズ別)】

	シリーズ名	熱線放射シーン合計	作品数	平均数
1位	VSシリーズ	197	7	29
2位	ミレニアムシリーズ	105	6	18
3位	昭和シリーズ	167	15	12

表4が示すとおり、VSシリーズが他2シリーズに大きく差を空けてトップとなった。ゴジラファンの通説は真実だと実証されたことになる。これからは胸を張って「VSシリーズは熱線・光線だらけ！」と言っていたきたい。

<熱線を吐く回数を決めているのは誰だ?!>

どのシーンでどれだけ熱線を吐かせるか？それは脚本が握っている。そこで、脚本家によって放射シーン数に特色があると考え、脚本家別にデータを集計しランキング付けした。なお、放射シーン数1回以下は端数切り上げとしている。

【表5：放射シーン数ランキング(脚本家別)】

	脚本家名	担当作品 熱線シーン数合計	担当作品数	平均数
1位	桐山勲	41	1	41
2位	大森一樹	123	4	31
3位	坂野義光	23	1	23
	三村渉	113	5	23
5位	馬淵薫	33	2	17
	長谷川圭一	17	1	17
	横谷昌宏	17	1	17
	金子修介	17	1	17
9位	横谷昌宏	32	2	16
10位	柏原寛司	44	3	15
	手塚昌明	15	1	15
12位	斯波一絵	14	1	14
13位	村田武雄	21	2	11
	本多猪四郎	21	2	11
	関沢新一	87	8	11
16位	日高繁明	10	1	10
	高山由紀子	10	1	10
18位	福田純	16	2	8
	永原秀一	8	1	8
20位	山浦弘靖	6	1	6

表5の通り、1作品のみ参加の脚本家が多く、相関を実証するにはデータが不足した。少なくとも、脚本を複数回担当した大森氏と三村氏については、平均放射シーン数がそれぞれ31回、23回と大きな数字であることから、意識的に熱線を吐かせていたと考えられる。しかし、作品毎に製作予算や熱線の演出方法も異なり、脚本家の意向がどこまで反映されているのかは定かではない。あくまでも参考として受け止めていただきたい。

### <ゴジラタワーがあればキングギドラは呼ばなくていい...?!>

おまけとして『対ガイガン』に登場したゴジラタワーのレーザー光線発射数についても計測した。驚くことに29回と非常に多い。しかも初発射から倒壊するまでのおよそ3分30秒の間で.....である。瞬間火力は相当なものだと想像できる。

打たれ強さに定評のあるゴジラだが、フラフラになってしまうのも納得である。

M宇宙ハンター星雲人はキングギドラなど呼ばずにタワーを量産した方が良かったのではないだろうか。.....キングギドラの名誉を守る為にもこれ以上の言及は控えることにする。

### <最も早く熱線を吐いたゴジラ作品は...?!>

これまでとは少し趣旨を変え、「早さ」に注目したい。

上映開始からはじめて熱線シーンが挿入されるまでの時間を計測し、ランキング付けした。

では結果をご覧ください。

【表6：放射シーン登場速度ランキング】

	作品名	登場時間
1位	三大怪獣 地球最大の決戦	00:00:25
2位	ゴジラ×メガギラス G消滅作戦	00:00:41
3位	地球攻撃命令 ゴジラ対ガイガン	00:00:42
⋮	⋮	⋮
28位	ゴジラ対メガロ	01:08:37
29位	ゴジラVSキングギドラ	01:09:48
30位	GODZILLA ゴジラ	01:44:35

表6の通り、最も早く熱線放射シーンが登場する作品は『地球最大の決戦』であり、上映開始25秒で熱線シーンが挿入されていた。

続いて『×メガギラス』が41秒後、『対ガイガン』が42秒となった。

思い起こしてみれば、3作ともどこことなく軽快な雰囲気漂う作品である。

上映開始直後に熱線シーンを組み込んだのは、観客に楽しく観てもらおうとする製作側の気持ちの表れかもしれない。

では逆に、最も遅く熱線放射シーンが登場する作品はなんだろうか。

勘の良い読者の皆様はすでにお気づきだろう。そう、『GODZILLA ゴジラ』である。

上映開始から1時間44分35秒後という圧倒的な遅さで、ワースト2位の『VSキングギドラ』よりも35分程度遅い。

ゴジラの登場まで長く、熱線を吐くまでもまた長い。だからこそ強く印象に残るシーンとなったのではないだろうか。

さすがに待たせ過ぎではないかという気もするが。

2016年7月29日公開の『シン・ゴジラ』に登場するゴジラはどんな熱線を吐いて私達を楽しませてくれるのだろうか。期待して待ちたい。

## 第2章：ガメラシリーズ 飛行シーン数

ガメラを印象付ける行動の一つ「飛行」。

飛行能力を活かしたアクションやバトルシーンがガメラ作品の醍醐味と言っても過言ではないはずだ。

昭和シリーズでは子供を背に載せて飛行するシーンがファンタジー要素を高めることに一役買っていたし、平成三部作ではVFXにより進化した回転ジェットがファンを唸らせた。『小さき勇者たち～ガメラ～』においても回転ジェットが重要なシーンで使用されていた。

飛行シーンはガメラ作品とは切っても切れない重要な要素だといえるだろう。

本項ではそんな「飛行シーン」の数を『大怪獣ガメラ』～『小さき勇者たち～ガメラ～』までの12作品を対象にカウントし、その結果を元に分析・考察を行った。

なお、「飛行シーン」のカウントにあたり下記7つの条件を設定した。

条件①：頭部および両手足を収納しての飛行は「回転ジェット」にカウント

条件②：「条件①」以外の飛行を「通常飛行」にカウント

条件③：劇中における実時間(リアルタイム)での飛行シーンは「本編中」にカウント

条件④：OP・ED、説明・回想シーン、記録映像での飛行シーンは「その他」でカウント

条件⑤：「通常飛行」から「回転ジェット」に移行したものは分けてカウント ※逆も同様

条件⑥：1回の飛行でシーンが分かれているものは1回とカウント

条件⑦：実時間として使用されたバンクシーンは「本編中」にカウント

ではカウント結果をご覧ください。

【表7：ガメラ飛行シーン数一覧】

	作品名	脚本家	特撮担当	通常飛行数		回転ジェット数		合計
				本編中	その他	本編中	その他	
昭和 シリーズ	大怪獣ガメラ	高橋二三	湯浅憲明	0	0	3	0	3
	大怪獣決闘 ガメラ対バルゴン	高橋二三	築地米三郎	0	0	6	0	6
	大怪獣空中戦 ガメラ対ギャオス	高橋二三	湯浅憲明	1	1	9	3	14
	ガメラ対宇宙怪獣バイラス	高橋二三	湯浅憲明	2	0	7	3	12
	ガメラ対大悪獣ギロン	高橋二三	藤井和文	5	0	3	1	9
	ガメラ対大魔獣ジャイガー	高橋二三	湯浅憲明	8	0	2	0	10
	ガメラ対深海怪獣ジグラ	高橋二三	湯浅憲明	7	0	0	0	7
	宇宙怪獣ガメラ	高橋二三	湯浅憲明	11	2	11	0	24
平成 三部作	ガメラ 大怪獣空中決戦	伊藤和典	樋口真嗣	5	0	1	0	6
	ガメラ2 レギオン襲来	伊藤和典	樋口真嗣	4	0	2	0	6
	ガメラ3 邪神(イリス)覚醒	伊藤和典	樋口真嗣	2	1	2	0	5
	小さき勇者たち～ガメラ～	龍居由佳里	金子功	0	0	2	0	2

### <だんだんカメラ慣れしていく昭和ガメラ?!>

まずは昭和シリーズの結果を見ていただきたい。

ある傾向が見えてくるが、読者の皆様はお気づきいただけるだろうか。

作品を重ねるに連れ回転ジェットの使用数が減少していき、代わりに通常飛行の使用数が増加しているのである。

初期作品では恥ずかしさから顔を隠していたが、出演回数が増えるに連れてカメラ慣れし、顔が見える通常飛行に切り替えていったのだろうか。

.....当然だが、そんなことはない。その理由は書籍で語られているとのことである。

しかし、理由が記載されている該当書籍を発見することができず、書籍を引用したと思われるWeb上の情報を下記に記載した。信憑性については疑問が残るため、その点、ご留意願いたい。

「対バイラス」製作時は大映本社の深刻な営業不振により大幅な予算削減が行われており、

4つの火薬が必要な回転ジェットより、2本の通常飛行の方が安く済むという判断だったとのことである。

公開当時、火薬は1つあたり3000円であり、回転ジェット1回で12000円必要となるが、通常飛行だと6000円で済む。

6000円という額をどう感じるかは個人差あると思うが、かなり深刻な予算状況だったことは窺い知れる。

夢の無い理由ではあるが、顔を見せるシーンが増えることでより親しみやすく、

子供の味方としての側面を強調できたのだとすると良い方向転換だったと言えるのではないだろうか。

### <身も心も攻撃的になる三部作ガメラ?!>

続いて平成三部作の結果を見てきたい。

昭和シリーズとは対称的に、回転ジェットが増加し通常飛行が減少していくことが分かる。

三部作のガメラは作品を追う毎に戦闘に特化したフォルムに変化するが、

その変化は身体だけでなく行動においても表現されていたと考えられる。

### <名シーン!トトの回転ジェット!>

シリーズ全作品中、最も飛行シーンが少ないのが『小さき勇者たち～ガメラ～』である。

数そのものは回転ジェットが2回のみと少ないが、双方とも重要な意味を内包したシーンとなっている。

1回目はトトが完全体に進化したことを言葉無く表現し、ラストバトルへ向けて気持ちを昂ぶらせてくれる。

2回目は透との別れで使用され、上野洋子氏の勇壮なテーマも相まって切なくも爽やかな気持ちにさせてくれる。

透は空の彼方へ飛び去るトトと、天へと旅立った母を重ね合わせる。そしてトトに別れの言葉を伝えることで

自分の心に決着を付け、物語は幕を閉じる。

どちらの飛行シーンも、ガメラが「空を飛べる怪獣」であることを最大限に活かした演出といえるのではないだろうか。

ニューヨーク・コミコン2015で突如公開された『GAMERA』のトレーラーでは飛行シーンは見つけられない。

しかし、ガメラ作品の大きな特徴である飛行シーンを入れないとは考えにくい。

次作ではどのような飛行シーンで我々を興奮させてくれるのだろうか。

期待して待ちたい。

### 第3章：ゴジラシリーズ 主人公の職業

鉛玉を打ち込んだり、特殊兵器を研究・開発することだけが怪獣と戦うということではない。マスコミも劇画化もトレジャーハンターも直接的ではないにしろ、何らかの形で怪獣と戦っている。本項ではゴジラ作品における主人公を男女で分け、それぞれの職業をリスト化した。主人公を1名に絞りきれない場合は筆者の主観で複数名ピックアップしている。あなたの職業はあるだろうか？

まずは男性主人公の職業一覧からご覧いただく。

【表8：ゴジラシリーズ 主人公職業一覧(男性編)】

作品名	名前(演:役者名)	種別	職業名
昭和シリーズ	ゴジラ(1954)	尾形秀人(演:宝田明)	技術者 南海サルベージKK 社員(所長)
		芹沢大助(演:平田昭彦)	学者 芹澤科学研究所 物理学者
	ゴジラの逆襲	山根恭平(演:志村高)	学者 古生物学者
		月岡正一(演:小泉博)	パイロット 海洋漁業KK 社員(パイロット)
	キングコング対ゴジラ	桜井修(演:高島忠夫)	マスコミ TTV放送局 局員(カメラマン)
		多胡(演:有馬一郎)	その他 パシフィック製菓 社員(宣伝部長)
	モスラ対ゴジラ	酒井市郎(演:宝田明)	マスコミ 毎朝新聞 社員(記者)
		三浦俊助(演:小泉博)	学者 南京大学 動物学者(教授)
	三大怪獣 地球最大の決戦	進藤(演:夏木陽介)	警察 警視庁 刑事
	怪獣大戦争	富士一夫(演:宝田明)	パイロット 地球連合宇宙局 職員(パイロット)
		グレン(演:ニック・アダマス)	パイロット 地球連合宇宙局 職員(パイロット)
	ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘	吉村(演:宝田明)	犯罪者 銀行強盗
	怪獣島の決戦 ゴジラの息子	楠見恒蔵(演:高島忠夫)	学者 気象学者(博士)
		真城伍郎(演:久保明)	マスコミ フリージャーナリスト
	怪獣総進撃	山辺克男(演:久保明)	パイロット 国連科学委員会 職員(パイロット)
	ゴジラミニラガバラ オール怪獣大進撃	三木一郎(演:矢崎知紀)	学生 小学生
ゴジラ対ヘドラ	矢野徹(演:山内明)	学者 海洋生物学者	
地球攻撃命令 ゴジラ対ガイガン	小高源吾(演:石川博)	その他 劇画家	
ゴジラ対メガロ	伊吹吾郎(演:佐々木勝彦)	学者 電子工学者	
ゴジラ対メカゴジラ	清水敏介(演:大門正明)	技術者 国場組 建設技師	
メカゴジラの逆襲	一之瀬明(演:佐々木勝彦)	学者 海洋開発研究所 海洋学者	
Vシシリーズ	ゴジラ (1984)	三田村清輝(演:小林桂樹)	役人 内閣総理大臣
		牧吾郎(演:田中健)	マスコミ 東都日報新聞社 社員(記者)
	ゴジラvsビオランテ	桐島一人(演:三田村邦彦)	学者 筑波生命科学研究所 所員
		白神博士(演:高橋幸治)	学者 サラリア生物工学研究所 研究員→白神新植物研究所 遺伝子工学者(博士)
	ゴジラvsキングギドラ	黒木翔(演:高嶋政伸)	軍人 防衛庁 特殊戦略作戦室 室長(三等特佐)
	ゴジラvsモスラ	寺沢健一郎(演:豊原功補)	その他 ノンフィクションライター
	ゴジラvsメカゴジラ	藤戸拓也(演:別所哲也)	犯罪者 トレジャーハンター
	ゴジラvsスペースゴジラ	青木一馬(演:高嶋政宏)	技術者 国連G対策センター ロボット技師→駐車場係→Gフォース隊員(准尉)
		新城功二(演:橋爪淳)	軍人 国連G対策センター Gフォース隊員(少尉)
	ゴジラvsデストロイア	結城晃(演:柄本明)	軍人 国連G対策センター Gフォース隊員(少佐)
ミレニアムシリーズ	ゴジラvsデストロイア	伊集院研作(演:辰巳琢郎)	学者 国立物理化学研究所所属 物理学者
	ゴジラ2000 ミレニアム	篠田雄二(演:村田雄浩)	その他 ゴジラ予知ネットワーク 会員(主宰)
	ゴジラ×メガギラス G消滅作戦	工藤元(演:谷原章介)	技術者 ジャンク屋店員
	ゴジラ・モスラ・キングギドラ 大怪獣総攻撃	立花泰三(演:宇崎竜童)	軍人 防衛海軍 幕僚部(准将)
	ゴジラ×メカゴジラ	湯原徳光(演:宅麻伸)	学者 人工生物学者(教授)
	ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京SOS	中條義人(演:金子昇)	軍人 特生自衛隊 整備士(一曹)
ゴジラ FINAL WARS	尾崎真一(演:松岡昌宏)	軍人 地球防衛軍 M機関 ミュータント兵(少尉)	
シン・ゴジラ	矢口蘭堂(演:長谷川博己)	役人 内閣官房副長官	
	赤坂秀樹(演:竹野内豊)	役人 内閣総理大臣 補佐官	
海外作品	GODZILLA	ニック・タブロス(演:マシュー・プロデリック)	学者 生物学者
	GODZILLA ゴジラ	フォード・プロディ(演:アーロン・テイラー・ジョンソン)	軍人 Navy EOD 隊員
		芹沢猪四郎(演:渡辺謙)	学者 MONARCH 生物学者

【表9：ゴジラシリーズ 主人公職業種別ランキング(男性)】

順位	職業種別	人数
1位	学者	13人
2位	軍人	7人
3位	その他	4人
3位	パイロット	4人
3位	マスコミ	4人
6位	役人	3人
7位	技術者	4人
8位	犯罪者	2人
9位	警察	1人
9位	学生	1人

<ゴジラ映画の主人公といえば...白衣が似合うあの職業?!>

表9より、男性主人公においては、学者を生業とした人物が最も多いという結果が出た。第1作目である『ゴジラ(1954)』の主人公が学者だったということもあり、ゴジラ作品といえば学者・博士というイメージが強い方も多いのではないだろうか。続いて多いのが軍人であり、怪獣映画という作風からも納得の結果といえる。昭和シリーズは学者が多く、平成シリーズからは軍人の割合が増加している。デスクでアイデアを絞る学者よりも現場に出る軍人の方が物語を構成しやすい.....と考えたのかもしれない。また昭和初期の作品にはマスコミ関係者が多いことも特徴である。これは公開当時、マスコミが花形職業として若者から人気を集めていたからであると考えられる。昭和・平成どちらのシリーズも全体的に社会的地位が高く、お堅い職業についている人物が多い。しかし、一部、ぶっとんだ職業についている人物がいる。『ミレニアム』にてゴジラ予知ネットを主催している篠田は、一見すると遊んでいるようにしか見えないが、実家は酒造を営んでおり安定した収入源はあるのだろう。特に異彩を放っているのが『VSモスラ』の藤戸が生業としているトレジャーハンターではないだろうか。しかも彼が行っているのは盗掘である。藤戸は東都大学・考古学教室助手だった経歴がある設定だが、知識の使い方を完全に間違っている。劇中にて元妻の雅子と寄り添うような描写があったが、本当にそれで良いのだろうか。3ヶ月後には後悔しているのではないだろうか？ 下世話ではあるが、子供の将来を考えるならもう少しまともな職に就いている男性に鞍替えすることを薦めたい。

では次に女性主人公の職業一覧をご覧ください。

【表10：ゴジラシリーズ主人公職業一覧(女性編)】

	作品名	名前(演:役者名)	種別	職業名
昭和シリーズ	ゴジラ(1954)	山根恵美子(演:河内桃子)	学者	山根博士の助手
	ゴジラの逆襲	山路秀美(演:若山セツ子)	技術者	海洋漁業KK 社員(無線係)
	キングコング対ゴジラ	桜井ふみ子(演:浜美枝)	その他	不明
	モスラ対ゴジラ	中西純子(演:星由里子)	マスコミ	毎朝新聞 社員(カメラマン)
	三大怪獣 地球最大の決戦	進藤直子(演:星由里子)	マスコミ	東洋放送ラジオ局 局員(報道部記者)
		マアスドオリナ・サルノ(演:若林映子)	その他	サルノ王国王女
	怪獣大戦争	波川(演:水野久美)	その他	X星人
	ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘	夕ヨ(演:水野久美)	その他	インファント島民
	怪獣島の決戦 ゴジラの息子	松宮サエコ(演:前田美波里)	その他	ゾルゲル島民
	怪獣総進撃	真鍋杏子(演:小林夕岐子)	技術者	国連科学委員会 職員(技師)
	ゴジラミニメテオガハラ オール怪獣大進撃	なし		
	ゴジラ対ヘドラ	富士宮ミキ(演:麻里圭子)	その他	歌手・ダンサー?
	地球攻撃命令 ゴジラ対ガイガン	志摩マチ子(演:梅田智子)	その他	不明
		友江トモ子(演:荻見百合子)	その他	小高源吾のマネージャー
	ゴジラ対メガロ	なし		
	ゴジラ対メガゴジラ	金城冴子(演:田島令子)	学者	首里大学 考古学者
メカゴジラの逆襲	真船桂(演:藍とも子)	その他	サイボーグ	
Vシリーズ	ゴジラ (1984)	奥村尚子(演:沢口靖子)	学生	大学生
	ゴジラvsビオランテ	大河内明日香(演:田中好子)	学者	精神開発センター 研究員
	ゴジラvsキングギドラ	エミー・カノー(演:中川安奈)	その他	地球均等環境会議 メンバー
	ゴジラvsモスラ	手塚雅子(演:小林聡美)	その他	東都大学環境情報センター 所員
	ゴジラvsメカゴジラ	五条梓(演:佐野量子)	学者	京都国立生命科学研究所 研究員
	ゴジラvsスペースゴジラ	権藤千夏(演:吉川十和子)	学者	国連G対策センター G研究所 生物工学者(博士)
	ゴジラvsデストロイア	山根ゆかり(演:石野陽子)	マスコミ	JBSテレビ局員?(キャスター)
	VSシリーズ全体	三枝未希(演:小高恵美)	その他	国連G対策センター サイキックセンター 職員(主任)
ミレニアムシリーズ	ゴジラ2000 ミレニアム	一ノ瀬由紀(演:西田尚美)	マスコミ	月刊『オーバーツ』記者
	ゴジラ×メガギラス G消滅作戦	辻森桐子(演:田中美里)	軍人	特別G対策本部 Gグラスパー 隊長(3佐)
	ゴジラ×モスラ×キングギドラ 大怪獣総攻撃	立花由里(演:新山千春)	マスコミ	BS・デジタルQ 社員(リポーター)
	ゴジラ×メカゴジラ	家城茜(演:釈由美子)	軍人	対特殊生物自衛隊 隊員(三尉)
	ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京SOS	如月梓(演:吉岡美穂)	軍人	対特殊生物自衛隊 隊員(階級不明)
	ゴジラ FINAL WARS	音無美雪(演:菊川怜)	学者	分子生物学者
海外作品	シン・ゴジラ	カヨコ・アン・バタースン (演:石原さとみ)	その他	米国大統領特使
	GODZILLA	オードリー・ティモンズ (演:マリア・ピティロ)	マスコミ	ジャーナリスト
	GODZILLA ゴジラ	エル・プロディ (演:エリザベス・オルセン)	その他	サンフランシスコ総合病院 医師

【表11：ゴジラシリーズ 主人公職業種別ランキング(女性)】

順位	職業種別	人数
1位	その他	14人
2位	学者	6人
2位	マスコミ	6人
3位	軍人	3人
4位	学生	1人

＜ゴジラシリーズは女性の働き方の変化を映し出す?!＞

表10が示すとおり、女性主人公は男性主人公とは打って変わり、特殊な職についている人物が多い。種別の判断が難しい職業を「その他」に分類した結果、「その他」が最も多くなった。異性人、孤島の先住民、挙句の果てにはサイボーグ……と、職業ですらない記載もあるが、読者様の寛大な心で見逃していただきたい。では、考察・分析に入りたい。

昭和シリーズにおいては助手やマネージャーといった補助的な職が目玉に留まるが、『VSビオランテ』から責任の伴う重要な職に就いた女性が増加していく。これは女性の社会進出という世相を作品に反映していると考えられる。『VSビオランテ』公開の4年前にあたる1985年に、職場における男女差別を廃止し平等に扱うことを定めた「男女雇用機会均等法」が制定されたことも関連を裏付ける事案ではないだろうか。

昭和シリーズ初期は比較的、現実的な職業についている女性が多く、特にマスコミ関連は女性にも人気のある職業であったことが想像できる。昭和中期から後期にかけては特殊な出自の人物が多く、職に就く就かない以前の話となるため割愛する。

VSシリーズでは研究員等のアカデミックな職に就いている人物が多いが、所属組織が非常に怪しい。お見合いやコンパで「精神開発センターで研究しています」や「サイキックセンターで主任をやっています」などと言われたらどう感じるだろうか？少なくとも筆者は怪しげな組織との関連を疑うだろう。

デスク職が多いVSシリーズとは対照的に、現場主義の女性が多いことがミレニアムシリーズの特徴といえる。どの作品の女性主人公も現場で走り回っている印象が強いのではないだろうか。VSシリーズ時点では男性と同じ目線・立場の女性は増えているのだが、最終的に主導するのはやはり男性だった。反面、ミレニアムシリーズでは男性主人公を引っ張っていくような力強い女性が描かれているのも面白い。ゴジラ作品は社会問題等の大きなテーマを扱っているだけでなく、価値観や生活の変化も反映されているのである。

2016年7月29日公開の『シン・ゴジラ』に登場するカヨコ・アン・パターソンは、米国大統領特使という今までにない役柄である。公開中の予告編では不適な笑みを見せているが、あれは何を意味するのだろうか。期待して待ちたい。

## 第4章：ガメラシリーズ 少年・少女キャラクターの愚行

ガメラ作品の特徴の一つ「子供との交流」。

特に昭和シリーズにおいては物語の根幹を担っていると言っても過言ではないだろう。

劇中に登場する子供たちは夢を忘れた大人達に代わり、ガメラを助け守ろうとする。

そんな彼らの姿と自分自身を重ね合わせ、ガメラと友達になり背中に乗ってみたい。

そんなことを夢想した方もいるのではないだろうか。

しかし、大人になった我々からみると、少しやんちゃが過ぎるのでは……と感じる行動も少なくない。

そこで本項では、ガメラ作品に登場する小学生以下の登場人物にスポットを当て、

彼らが劇中で行った愚かな行為(愚行)をリスト化した。

また、それら行為の愚かさのレベルを主観ではあるが5つ星で評価を行った。

愚行であっても、善意が感じられる行為は評価を甘くしている。

最も愚行レベルが高いのは一体誰だろうか？

【表12：ガメラシリーズ 少年・少女キャラクター 愚行一覧】

	作品名	名前(演:役者名)	愚行レベル	愚行内容
昭和シリーズ	大怪獣ガメラ	桜井俊夫(演:内田喜郎)	★	学校に亀を持っていく
			★★★★	危険な灯台へ自ら登り、あげく助けを求める
			★	寝たフリをし、逃がした亀を取りに行く
			★★★★	道路に飛び出し、車に轢かれそうになる
			★	集めた石を少年に見せない
			★★★★	避難せず危険エリアへ自ら赴く
			★★★★★	石油列車に乗りつけ、作戦の邪魔をする
			★★	Zプラン本部に密行する
			番外	ガメラからZプランに浮気する
	大怪獣決闘 ガメラ対バルゴン	該当者無し		
	大怪獣空中戦 ガメラ対ギャオス	金丸英一(演:阿部尚之)	★★	ブン屋にパチンコを当てる
			★★★	双子山へブン屋を案内する
			★	説明中に『ギャオスだよォッ!』と口を挟む
			★	静かにしろと注意されるもさらに大声を出す
			★	ギャオス対策会議に突入する
	ガメラ対宇宙怪獣バイラス	中谷正夫(演:高塚徹)	★★★★	潜水艇のモーターを逆回転に設定する
			★★★★★	避難せずバイラス星人につかまる
		ジム・モーガン (演:カール・クレイグ・Jr.)	★★★★	潜水艇のモーターを逆回転に設定する
	★★★★★	避難せずバイラス星人につかまる		
ガメラ対大悪獣ギロン	明夫(演:加島信博)	★	友子に望遠鏡を覗かせない	
		★★★★★	宇宙船を勝手に動かす	
	友子(演:秋山みゆき)	無し		
ガメラ対大魔獣ジャイガー	トム (演:クリストファー・マーフィー)	★	駐在さんのタオルを吸盤で貼り付けにする	
		★★★★★	宇宙船を勝手に動かす	
		北山弘(演:高桑勉)	★	ガメラを助ける為に潜水艇を無断で動かす
トミー(演:ケリー・パリス)	★	ガメラを助ける為に潜水艇を無断で動かす		
スーザン(演:キャサリン・マーフィ)	無し			
ガメラ対深海怪獣ジグラ	石川健一(演:坂上也寸志)	★	無断でボートに忍び込み、盗み食いをする	
		★★	無断で潜水艇に忍び込む	
		★	無断でボートに忍び込み、盗み食いをする	
ヘレン・ウォレス (演:グロリア・ゾーナ)	★★	無断で潜水艇に忍び込む		
宇宙怪獣ガメラ	木下圭一(演:前田晃一)	★	悪いお姉さんについて行く	
三部作 平成	ガメラ 大怪獣空中決戦	姫神島の少年(演:不明)	★	怪獣の真似をしてお店の棚を荒らす
	ガメラ2 レギオン襲来	仙台の少女(演:前田亜季)	無し	
	ガメラ3 邪神(イリス)覚醒	比良坂悟(演:伊藤隆大)	無し	
小さき勇者たち～ガメラ～	相沢透(演:富岡涼)	★	隠れてトを飼う	
		★	トを助ける為に無断で名古屋へ行く	
		石田勝(演:石川眞吾)	★	お母さんネタで透をいじる
石田克也(演:成田翔吾)	無し			

【表13：ガメラシリーズ 少年・少女キャラクター 愚行レベルランキング】

順位	名前	登場作品	総愚行レベル
1位	桜井俊夫	大怪獣ガメラ	★×22
2位	金丸英一	大怪獣空中戦 ガメラ対ギャオス	★×9
	中谷正夫/ジム・モーガン	ガメラ対宇宙怪獣バイラス	★×9
4位	明夫/トム	ガメラ対大悪獣ギロン	★×6
5位	石川健一/ヘレン・ウォレス	ガメラ対深海怪獣ジグラ	★×3
6位	相沢透	小さき勇者たち～ガメラ～	★×2
7位	北山弘/ミー	ガメラ対大魔獣ジャイガー	★×1
	木下圭一	宇宙怪獣ガメラ	★×1
	石田勝	小さき勇者たち～ガメラ～	★×1

<愚行レベルが最も高いのは噂のあの少年...?!>

表13の通り、最も愚行レベルが高いのは『大怪獣ガメラ』の俊夫となった。やんちゃの域を超えた悪業の数々はガメラファンの語り草になっており、納得の結果といえる。石油搭載列車に乗り込み、ガメラとの接触を試みようとする下りは何度観ても頭を抱えてしまう。自分勝手な行動で多くの人を危険に晒すだけでなく、集めた石を少年に見せないなど、素の性格も相当に悪いことが伺える。挙句、あれほどガメラに固執していたのが嘘のようにZプランに鞍替えする始末である。まともな大人に育つとは到底考えられない。Zプランで火星に送るのはガメラだけで良いのだろうか。俊夫少年も送るべきだったのではないだろうか。『対バイラス』の正夫・ジムのペアにも注目していただきたい。愚行と呼べるものは2つしかないものの、その2つがかなり大きな悪事である。潜水艇のモーターを逆回転にするというのは、車のシフトレバーのドライブとリバースを入れ替えるようなもので、その危険は想像に難くない。バイラス星人は後回しにし、まずはこの2人を抹殺するという判断も悪くないと思われる。避難を呼びかけられているにも関わらず危険エリアに出向き、特に抵抗もせずにバイラス星人に捕まってしまうのも相当に愚かな行為である。ほったらかしにされても文句は言えないのではないだろうか。『ガメラ 大怪獣空中決戦』にて、怪獣の真似をして店の展示物を荒らした、姫神島の少年も印象深い。恥ずかしながら、筆者である私も幼少期に同じような遊びをしていたように思う。怪獣好きであれば誰もが通る道.....なのではないだろうか。

<『小さき勇者たち』が描く、愚行との付き合い方とは?!>

昭和ガメラシリーズは、子供達が人命に関わるような行動をしているにも関わらず、それらを咎める大人がほとんどいないのが特徴といえる。終わりよければ全てよし.....本当にそれで良いのだろうか。『小さき勇者たち』にて、透が父・孝介に叱られるシーンがある。トトを救うという理由があったにせよ、無断で行動し心配をかけた事に対してはしっかりと反省させる。そんな描写こそ子供に見せるべきなのではないだろうか。結果も大事だが、そこにいたるまでの過程もまた大事なのではないだろうか。

シリーズが進むに連れて、危険が伴う迷惑行動を起こす子供が減少していく傾向にある。ここからは勝手な想像であるが、『対バイラス』あたりまでは、子供をどう怪獣映画に組み込むか試行錯誤していたのではないだろうか。子供を大人の世界に組み込むため、無茶で突飛な行動を起こさせ、その存在感をアピールする狙いがあったのかもしれない。また、近年のアニメ・特撮業界でたびたび話題に挙がる、自主規制であった可能性も考えられる。

作品を観た子供が真似をしないように、過激な行動は避ける方向性となったのかもしれない。

ニューヨーク・コミコン2015で突如公開された『GAMERA』のトレーラーにも子供の姿が確認できる。トレーラーと公開作品の関連は現時点では全く不明だが、子供とガメラの交流が重要な要素であることは、製作側も意識しているように思われる。

新ガメラの今後の展開に期待しつつ、新たな愚行少年・少女が生まれないことを心から願うばかりである。

## 第5章：ゴジラ・ガメラシリーズ 登場飲食物

ゴジラ・ガメラ作品には様々な飲食物が登場する。

普段から我々が口にするようなものから、作中にもみ存在する特殊な食物もある。

本項ではゴジラ・ガメラ作品に登場した飲食物をできる限り抽出しデータベース化した。

飲食物の名前は筆者が勝手に命名しているものであり、公式ではないことをご留意願いたい。

また、はっきりと確認できない場合は想定で記載し「(?)」を付与している。

まずは、ゴジラシリーズからご覧いただこう。

【表14：ゴジラシリーズ 登場飲食物 一覧】

	作品名	登場した飲食物	
昭和シリーズ	ゴジラ(1954)	無し	
	ゴジラの逆襲	料亭弥生の料理 接待用チーズタルト	
	キングコング対ゴジラ	ふみ子の夕食(ピフテキ、人参スティック、いんげん、フライドポテト) パヤリース	
	モスラ対ゴジラ	ゆでたまご 「浜風ホテル」のホットケーキ インファント島の赤い汁	
	三大怪獣 地球最大の決戦	登山食(カレー&ウインナー(?))	
	怪獣大戦争	無し	
	ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘	ヤーレン号保存食(コンビーフ、ピザ?) レッチ島のパナナ&みかん	
	怪獣島の決戦 ゴジラの息子	シャーベット計画チームの食事(パン(マーガリン付き)、生ハム、コンビーフ、スープ、乾燥野菜、パヤリース) ゾルゲルパセリ 赤い沼の水	
	怪獣総進撃	無し	
	ゴジラ・ミニラ・ガバラ オール怪獣大進撃	三木家のおやつ(牛乳、あんぱん) 南信平のすき焼き 強盗犯のウイスキー 屋台のおでん 三木家の朝食(詳細不明)	
	ゴジラ対ヘドラ	矢野家の朝食(チャーハン、シューマイ、味噌汁(?)、魚の佃煮)	
	地球攻撃命令 ゴジラ対ガイガン	ヒッピー高杉の拳銃(とうもろこし) 小高源吾のパナナ	
	ゴジラ対メカゴジラ	ココロ&ファンタ 鮭菓子	
	ゴジラ対メカゴジラ	ブラックホール第三惑星人の緑ワイン クイーンコーラル号のディナー(ステーキ、パン、サラダ、スープカレー(?))	
	メカゴジラの逆襲	赤ワイン	
	V/Sシリーズ	ゴジラ (1984)	無し
		ゴジラVSビオランテ	ゴジラ痕跡記念館のおつまみ(クラッカー、サラミ、ピクルス(?))
		ゴジラVSキングギドラ	屋台「らごす」のおでん 草食獣(インスタント焼きそば)
		ゴジラVSモスラ	マニラのホテルのディナー(詳細不明)
		ゴジラVSメカゴジラ	G対策センター食堂のランチメニュー①(白米(?)、味噌汁(?)、オムレツ(?)、サラダ) G対策センター食堂のランチメニュー②(ミートソーススパゲッティ、サラダ)
ゴジラVSスペースゴジラ		無し	
ゴジラVSデストロイア		ペプシコーラ 東京湾クルーズのディナー(カルパッチョ)	
V/Sシリーズ	ゴジラ2000ミレニアム	居酒屋いちっんの天ぷら(?) イオのコロッケ&おにぎり	
	ゴジラ×メガギラス G消滅作戦	マイクロマシンカレー	
	ゴジラ・モスラ・キングギドラ 大怪獣総攻撃	焼肉 立花家の朝食(焼酎、味噌汁) 門倉企画部長のするめイカ ラーメン	
	ゴジラ×メカゴジラ	子供からの贈り物(おまんじゅう(?)) 湯原家の朝食(ハムエッグ、サラダ)	
	ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京SOS	無し	
	ゴジラ FINAL WARS	南極クロワッサン	
海外作品	GODZILLA	ペプシコーラ そば ガム クバブ エバート市長のおやつ(チョコレート(?)) ロリポップ ドーナツ トースト ポテトチップス チョコレートケーキ 赤ワイン&スナック菓子	

## <東宝特撮映画とバヤリースの関係とは?!>

昭和シリーズで気になるのは『対ヘドラ』の「矢野家の朝食」である。和風な食卓にチャーハン、シューマイ、魚の佃煮、味噌汁(?)が並んでおり、妙にアンバランスな組み合わせである。

このありあわせ感がリアルと言えるのかもしれないが...

『対メカゴジラ』で黒沼司令が飲んでいて、「ブラックホール第三惑星人の緑ワイン」も非常に印象的だ。どう見ても美味しそうには見えない。実は何かのバツゲームで飲まされていただけなのではないだろうか。続編の『メカゴジラの逆襲』では赤いワインは登場するが、緑のワインは見つけることはできない。

やはり黒沼司令はバツゲームで飲まされていたのだろう。

飲み物でいえば『ゴジラの息子』でシャーベット計画チームが「バヤリースオレンジ」を大量に保管していたが、チームメンバーの血糖値は問題ないのだろうか。古川はゾルゲル島から出たがってしたが、ホームシックなどではなく、ただ単にバヤリースオレンジに飽きただけなのかもしれない。

その他、『モスラ(61年)』や『キングコング対ゴジラ』、『マタンゴ』にもバヤリースオレンジは登場しているし、『モスラ対ゴジラ』にはバヤリースの旗が登場する。

昭和の東宝特撮映画には何の脈絡も無くバヤリースが現れるので、印象に残っている方も多いのではないだろうか。

これはバヤリースが東宝映画のスポンサーとして参加しており、タイアップという形で劇中で使用し、宣伝していたためである。

『オール怪獣総進撃』で、発明おじさんこと南信平が振舞っていた「すき焼き」はとても美味しそうで、一郎君が羨ましく思ってしまうほど。

仲間とすき焼きを囲みながら『オール怪獣総進撃』を観賞するととても楽しそうだ。

『対メガロ』では六郎少年がスティック状のスナック菓みに噛り付いている。形状的には我々にとって馴染み深いうまい棒に見えるが、実はそうではない。

『対メガロ』の公開年は1973年、うまい棒の販売開始は1979年である。

『対メガロ』公開時にはうまい棒は世に出ていないのである。

おそらくこれは、昭和時代に駄菓子屋で人気のあった「麩菓子」だと思われる。

## <オトナな食事シーンを再現できるスポットとは...?!>

バブリーかつムーディーなオトナの食事シーンが多いのがVSシリーズの特徴といえる。

特に『VSビオランテ』におけるゴジラ痕跡記念館での桐島と明日香の食事シーンは、ゴジラ作品きってのトレンディドラマ感を味わえるシーンである。

机に並ぶ食べ物もクラッカーやサラミといったお洒落なもの。

明日香が桐島に放った「あなたはロミオのつもりでも私はジュリエットをやる気はないわ」は名台詞だが、現実で使おうものならドン引きされること必至である。

女性の読者様には是非、しかるべき場面で使っていただきたい。

男性の心をへし折るだけでなく自身のナンセンスさを同時にアピールできるため、確実に諦めてくれるはずだ。

実際にゴジラの存在を感じながらバブリーでお洒落なひと時を過ごしたい.....。

そんなあなたに勧めたいのが「ボンジュール ホテルグレイスリー新宿店」。

川北紘一監督監修の巨大ゴジラヘッドを眺めながら、お茶や食事を楽しめる名スポットである。

紅茶とケーキを楽しみながらジュリエットになれないことを宣言していただきたい。

『VSキングギドラ』で登場するインスタント焼きそば「草食獣」は劇中での扱われ方が有名だろう。カップ焼きそばは湯切りをすることで完成するが、劇中では寺沢が「できた！」と発言してフタを開けると、ソースもふりかけもかかった状態で出来上がっている。

あらかじめ湯切りをしていたのであれば再度フタを乗せる必要は無いはずだ。

未来人がタイムリープしてきたことにより時空の歪みが発生し、調理中の「草食獣」に影響を与えたのかもしれない。筆者としてはタイムパラドックスの矛盾よりもこちらの方が気になる。

『VSメカゴジラ』で登場した「G対策センター食堂のランチメニュー」も気になるところ。劇中に登場した料理を見る限り、質素で具があまり盛られていないように見える。超兵器に予算を割くために食材費を抑えているのだろうか。だとするなら、佐々木隊長がカリカリして青木に当たってしまうのも頷ける。

### <ミレニアムシリーズといえば...カレーライス?!>

ミレニアムシリーズの食べ物といえば『xメカゴラス』の「マイクロマシンカレー」だろう。

米とカレー粉と福神漬けにお椀を乗せ、5秒待てばカレーライスが調理される。

手品だと思っていた少年達は、その正体がマイクロマシンと電子レンジ知り落胆する。

しかし、冷静に考えれば驚異的な技術力なのではないだろうか。

水が無い状態で、しかも5秒という短時間で米を炊くことなど想像もできない。

仮に米を炊けたとして、カレー粉だけでどうやってとろみのあるカレールーを作るのだろうか。

子供達は落胆している場合などではない。目の前の奇跡に驚嘆し、技術を学ぼうとすべきだ。

『FW』にてエリアGのグレンが食べていた「南極クロワッサン」も一部界限では人気らしい。オーブントースターで焼いたような描写があったが、焦げ目一つついていないし熱さも感じられない。南極の寒さでオーブンの効きが悪いのだろうか。

### <マグロを食え!>

トライスター版『GODZILLA』は魚を食べるゴジラの印象が強い。

しかし、実は人間の食事シーンが非常に多く、気が付けば誰かが何かを食べている。

しかも登場する食べ物はいずれも高カロリーである。

登場人物達にはゴジラを見習って、魚を食べることを勧めたい。

では次にガメラシリーズの飲食物をご覧いただこう。

【表15：ガメラシリーズ 登場飲食物 一覧】

	作品名	登場した飲食物
昭和シリーズ	大怪獣ガメラ	桜井家の夕食(白米、ワカメと野菜の和え物(?), 漬物)
	大怪獣決闘 ガメラ対バルゴン	ウイスキー、平田家のおつまみ(人参、ブロッコリー)、日本酒
	大怪獣空中戦 ガメラ対キャオス	なし
	ガメラ対宇宙怪獣バイラス	ボーイ・ガールスカウトのおやつ(まんじゅう、コーラ) バイラス円盤製のおやつ(フルーツジュース、サンドイッチ、りんご、梨)
	ガメラ対大悪獣ギロン	惑星テラ製のおやつ(ドーナツ、カルピス) 明夫君の家のおやつ(クッキー、コーヒー)
	ガメラ対大魔獣ジャイガー	「悪魔の笛」発掘隊のおやつ(バナナ、パイナップル、しいたけ(?)) 健一ママのお弁当(白米、ウインナー、卵焼き、ブロッコリー)
	ガメラ対深海怪獣ジグラ	海草
	宇宙怪獣ガメラ	ハンバーガー
	平成三部作	ガメラ 大怪獣空中決戦
米森の夕食(冷やしうどん(?))		
カステラ		
コンビニのおにぎり&パン		
屋台のラーメン		
浅黄の夕食(白米、味噌汁、焼き魚、漬物)		
草薙家の夕食(白米、焼肉、サラダ)		
米森の差し入れ②(スイカ)		
居酒屋の手羽先、しそ漬け梅干、はちみつ梅干		
草薙直哉の酒のあて(ひじきと豆の煮物)		
ガメラ2 レギオン襲来		徳波家の朝食(白米、味噌汁、焼き鮭、漬物、ほうれん草の煮浸し(?), 金時豆(?), 何かの煮付け(?))
		徳波家のおやつ(あられおかき、海苔巻きあられおかき、醤油おかき(?), みかん)
		徳波の隠しウイスキー
		コーヒー牛乳
		日清のごんぶと(きつね)
		日野原家の朝食(白米、味噌汁、焼鮭、卵焼き、ひじき)
ガメラ3 邪神(イリス)覚醒		屋台の焼きそば
		スイカ
		綾奈の差し入れ(ウインナー、ベーコン、ハム、牛乳、ネコ缶)
		日野原家の夕食(さばの味噌煮、ひじきと豆の煮物、ほうれん草の和え物、里芋の煮物、枝豆、ポテトサラダ、トマト&レタス、漬物)
		焼き鳥
	旅館の朝食(白米、焼き魚、味噌汁)	
	大迫の差し入れ(コンビニのおにぎり&パン)	
	綾奈の記憶の中の食べ物(カレーライス、サラダ、福神漬、らっきょ)	
小さき勇者たち～ガメラ～	あいざわ食堂のメニュー(チャーハン、ギョーザ、冷奴、エビチリ(?))	

<キノコがおやつになる世界?!>

昭和シリーズで気になるのは『対ジャイガー』で登場した「『悪魔の笛』発掘隊のおやつ」だろう。バナナ・パイナップルと共に、何故か椎茸のようなキノコ状の食べ物が置かれている。

キノコはおやつに入る世界なのだろうか。

「バイラス円盤製のおやつ」や「惑星テラ製のおやつ」は演出が奇抜で面白いが、食べ物そのものはごくごく普通であるため、特筆すべきことは無いと思われる。

『対ジグラ』で仁右衛門島の老人が食べていた「海草」は印象深い。あの海草が老人を生き長らえさせているのであるなら、驚異的な栄養価を誇っているに違いない。ジグラ星人が起こした地震により東京は壊滅したが、食料問題は回避できるかもしれない。

## <食べ物物語を動かすカギ?!>

平成三部作においても様々な食べ物が登場するが、特に変わったものは見られない。しかし、食べ物が登場するシーンは物語のターニングポイントやキーポイントとなっていることが多い。『ガメラ 大怪獣空中決戦』では米森がキーパーソンである長峰と草薙親子に会う際に差し入れを用意している。物語における重要人物であることを、差し入れというアクセントを入れることで観客に伝えようとしているのではないだろうか。

『ガメラ2』で登場した「穂波の隠しウイスキー」も印象深い。ウイスキー登場シーンにて、父親の感情を配慮した渡良瀬の言葉に対し、穂波は「そこはそれ、パワーバランス」と答える。文字通りに受け取ると単純にクスリとくるだけだが、映画観賞後にその台詞がガメラ2のテーマそのものを現していたこと、そして、決して思いつきで用意されたシーンでないことに気付かされる。

『ガメラ3』においては、大迫が長峰に励まされ奮起するシーンでビールと「焼き鳥」が、逆に龍成を励まし行動を促すシーンにおいても「コンビニおにぎり&パン」が登場する。今後、平成三部作を観賞する際にはぜひ食べ物に注目していただき、物語にどう影響を与えているか確認していただきたい。

いかがだったでしょうか。お気に入りの飲食物はあったでしょうか。劇中に登場する食べ物をたしなみながら観賞するのも、新たな映画の楽しみ方ではないでしょうか。読者の皆様には是非とも挑戦していただきたい。

## 【参考文献一覧】

- ・電撃ホビーマガジン編集部 『平成ガメラパーフェクション』 (KADOKAWA/アスキー・メディアワークス、2014年)
- ・電撃ホビーマガジン編集部 『ゴジラ 東宝チャンピオンまつり パーフェクション』  
(アスキーメディアワークス、2014年)
- ・別冊映画秘宝編集部 『別冊映画秘宝 東宝特撮女優大全集』 (洋泉社、2014年)
- ・電撃ホビーマガジン編集部 『平成ゴジラパーフェクション』 (アスキーメディアワークス、2012年)
- ・野村宏平 『ゴジラ大辞典』 (笠倉出版社、2004年)
- ・ゴジラ画報―東宝幻想映画半世紀の歩み (竹書房、1999年)
- ・ガメラ画報―大映秘蔵映画五十五年の歩み (竹書房、1996年)

## Report 4

『ゴジラvsヘヴィメタル 「異形」 ジャンルの異種格闘技戦』

文：真田ゼウス

## 【序章】 ゴジラとヘヴィメタルの邂逅

---

### 【序章】

#### ゴジラとヘヴィメタルの邂逅

唐突だが、「怪獣映画」と聞いて、皆さんはいったい何を連想するだろうか？  
ゴジラをはじめとした巨大なモンスター、恐怖、破壊、爆発、ロボット、兵器……

さらに唐突な話が続くが、「ヘヴィメタル」という音楽ジャンルについて、  
皆さんはどんなイメージを持っているだろうか。

うるさい？ 暴力的？ 怖い？ 背德的？  
そもそもイメージすらできない？

映画のサブジャンルとしてみても、音楽のいちジャンルとしてとらえてみても、  
両者はいずれも王道とは少し外れた、「邪道」もしくは「異形」  
と言ってもいいかもしれない怪獣映画とヘヴィメタル。  
それらは往々にして、清廉な心を持ったいわゆるフツウの人にとっては、  
自らの人生の中でいずれもチラ見で通り過ぎて行ってしまうようなものかもしれないし、  
たとえかりそめに心を奪われたとしても、それはあくまで一過性の熱病のもの  
だったりするかもしれない。自虐的になってしまうが、  
どちらとも日陰のコンテンツといえるだろう。  
しかしながら怪獣映画にも、ヘヴィメタルにも熱烈なファンというものが、  
世界中に一定数存在するのだ。いずれもジャンルとして確立されたのはここ50年前後と、  
比較的歴史の浅いコンテンツではあるが、実に語り甲斐のある、深いコンテンツでもあるのだ。

時は1998年、ある1枚の音楽CDが発売された。  
その名も『ゴジラvsヘヴィメタル』。本項のタイトルはこれから取った。  
東芝EMIからリリースされた所謂企画盤で、野村義男、茶々丸といった  
有名ギタリストが伊福部昭の手がけたゴジラ音楽をハードロック/ヘヴィメタル調に  
アレンジを施し演奏する、インストゥルメンタル曲集であった。  
丁度この頃はハリウッド第1弾のゴジラ（トライスター版）が公開された年であり、  
ロックミュージック界では、アニメや特撮ソングをメタルアレンジして人気を博した、  
ANIMETAL（アニメタル）と、それに追随するかのように昭和懐メロをメタルアレンジする  
といった趣の音楽作品が乱発された時代でもあったのだ。  
本作品はこれらのような時代的な流れの中に生み出された副産物でしかなく、  
音楽的な内容で言っても、両者の持つ良さをスポイルしてしまうような、  
中途半端な出来であった。

この作品を聴いた筆者の胸にはこんな思いが去来していた。  
「大変もったいない。ゴジラとメタルは似ているのに……」

ゴジラと（ヘヴィ）メタルは似ている。どういうわけかこんな言葉が

いつからか頻繁に筆者の頭をもたげるのであった。

ゴジラの何が、メタルの何がどう似ているのか。

しかしそれを自分の言葉で説明することがなかなかできないのである。

まったくもって身も蓋もない話である。しかしながら、森羅万象、あまねく全てのものは本質的には繋がっており円環をなしている、という世の理が正しいならば、怪獣映画とヘヴィメタルの間にだって、見えそうで見えない、光が当たったらキラリとかろうじて見えるような、ピアノ線のような糸が一本、張ってあってもいいのではないか？

そう思うようになったのである。そんな、あつてないようなよく分からない動機と理由づけにより、これまでやってみたかったができなかった筆者の試みとして、怪獣映画とヘヴィメタル、それぞれの代表的な作品やそのクリエイターを紹介することで世界観や精神性、特徴を抽出し「対決」させてみることを考えた。

ヘヴィメタルを構成する要素と、怪獣映画や怪獣番組がもつそれらが、がっぷり四つに組ませることで、これまで筆者が苦手としていた「ヘヴィメタルとは何か？」という問いに対する仮説をひとつひとつ立てていこうと思うのである。

本誌を読んでくださっている読者のみなさんは恐らく怪獣映画、広くは特撮映像作品に関心のある方々と推察し、逆にヘヴィメタルにはあまり知識も関心もないであることを前提に筆を進めていこうと思う。怪獣映画とヘヴィメタル、「異形」ジャンル同士の異種格闘技戦のゴングを、いま（勝手にひっそりと）鳴らそうではないか。

本題に入る前に、読者の皆さんに初めに断っておきたいことがある。それは、決してヘヴィメタルは怪獣映画を好んで観る人全員に気に入ってもらえる音楽であるとは（良い意味でも悪い意味でも）お世辞でも言うことが憚られるし、これを機に是非ヘヴィメタルを好きになってほしいという意図は、正直あまりないということだ。またその逆も然りで、ヘヴィメタル愛好家に進んで怪獣映画を観てほしいとか、そういう押しつけがましさは持ち合わせていない。ただ、これをある程度理解のある方面にアウトプットしてみたら、もしかしたら奇妙な方々に「クスッ」とだけ嘲笑してもらえるのではないかと一縷の望みを抱いてしまったのである。もしそのような方が一人でも現れたとすれば、これほど喜ばしいことはないのである。

そして、以後に示すデータや事実に関しては出来る限りソースに基づき、誤りのないように努めるが、もしも事実誤認があった際にはご容赦頂き、有識者の多くいる当ジャンルの先輩諸氏にその教を素直さ誠実さをもって乞うつもりである。なお、本文中で取り上げる作品群としては全体の統一感を出すために、新旧の東宝特撮作品を中心としていくことをひとつのテーマとする。もちろん、場合に応じて他社の特撮作品を引き合いに出すことも想定されるので、その辺りはあしからずご了承いただきたい。



筆者所有の一枚。なぜゴジラはヘヴィメタルと戦わねばならなかったのか。  
そこに必然性はあったのだろうか？それを明らかにしていこう。

## 【ROUND 1】ヘヴィメタルと怪奇人間

---

### 【ROUND1】

#### ヘヴィメタルと怪奇人間

#### ～東宝「変身人間シリーズ」対 ブラック・サバス～

時は来た アイアンマン（鉄男）が街にやってくる  
復讐のため墓からあらわれる 一度は助けた人々を殺しに

誰も彼を必要とせず 顔をそむける  
誰も彼を助けない 彼は復讐に燃える

鉛の重い足が 人を恐怖で満たす  
できるだけ早く逃げろ アイアンマン（鉄男）が復活した

#### **Black Sabbath “Iron Man” より**

ドスン、ドスンと重々しいバスドラムの音で始まるイントロは、鉛のブーツでゆっくりこちらに一步一步迫りくる恐怖を、不穏に響くディストーションギターのサウンドはうなり声をそれぞれ明瞭に、かつ効果的に表現している。そして、ボーカルラインも同じメロディであるこの曲のメインテーマともいえる伊福部昭の楽曲を引用したかのようなおどろおどろしく印象的なギター・リフが、このバンドのイメージを決定付けるものとして、今もなお名曲として語り継がれている。

ブラック・サバスは1967年に結成されたヘヴィメタルの礎を築いたとも言われるハードロックバンドである。バンド名は、ベーシストのギーザー・バトラーが、1964に公開のホラー映画『BLACK SABBATH』（邦題『ブラック・サバス/恐怖!三つの顔』）から取って命名した。また、映画館にはその作品を求め長蛇の列が出来ていたことから、ギーザーは「人間は恐怖を求める」という着想を得たという。そして彼らのデビューアルバム『Black Sabbath』（邦題『黒い安息日』）も、1970年2月の"13日の金曜日"という日くつきの日付にリリースされた。黒魔術などのオカルト要素も初期から取り込んでおり、初めから「恐怖」や「おどろおどろしさ」をコンセプトとして生まれたロックバンドであるブラック・サバスは、ヘヴィメタルのアイデンティティそのものを体現した、いわばオリジネーター的存在とも言えるだろう。

日本国内では最近、ふなっしーとの共演で知られるボーカリストのオジー・オズボーンはブラック・サバス脱退後もソロアーティストとして、80年代以降のヘヴィメタルシーンの中心であり続けた。自らをMadman（狂人）と称し、ステージ上では鳩の頭やコウモリを食いちぎるなどという奇行はヘヴィメタルを知らない人々へのイメージづけとして良くも悪くも歴史に残るエピソードとなった。1981年に発表した2ndアルバム『Diary of a Madman』以降の数作のカバーアート（ジャケット）では、特殊メイクで自らを怪物化したビジュアルを発表するなど、音楽ジャンルにおける

ヘヴィメタルという「異形」のシンボルであり続けた。

救いの無い異形の存在が復讐にやってくる、といった情景が目には浮かぶような『Iron Man』の歌詞は、ブラック・サバスが織り成すダークな音楽的雰囲気も手伝って、『美女と液体人間』、『電装人間』、『ガス人間第一号』は東宝特撮映画における傑作群、いわゆる「変身人間シリーズ」にも似た空気感を醸し出している。このアイアンマン（鉄男）の出自や詳細な物語は歌詞から推し量ることしかできないが、社会から疎外された、普通とは何か違う特徴を持った人間がその力をもって復讐を誓うという内容は、『電送人間』における上官や同僚の裏切りに遭い殺されかけた元軍人、須藤の復讐劇を彷彿とさせる。

もっとも、「変身人間シリーズ」も元はと言えば、『狼男』や『魔人ドラキュラ』などのユニバーサル元祖怪人映画の日本版インスパイアであるだろうし、ブラック・サバスもそちらをリファレンスにしているはずであるが。

いずれにしても怪獣映画の内包する「異形」「怪奇」「ダーク」といったイメージは、ヘヴィメタルの持つ世界観と親和性が高いということが言えるのである。

仮説1：ヘヴィメタルと特撮映画は

「怪奇で」「ダークな」「復讐の」物語である。



オジー・オズボーンのソロ3作目『Bark at the Moon（月に吠える）』のアートワーク。ホラーテイスト溢れる世界観こそが彼のアイデンティティであり、ヘヴィメタルの「記号」でもある。

## 【ROUND 2】 金属的な「ソリッド」さをもたらすもの

---

### 【ROUND 2】

#### 金属的な「ソリッド」さをもたらすもの ～メカゴジラ対ジューダス・プリースト～

弾丸よりも速く轟く  
恐怖の叫び  
怒りに震える  
奴は機械との合体人間

メタル・モンスターにまたがり  
炎と煙を吐きながら  
復讐に燃えて空を翔けてくる

奴はペインキラー  
これぞペインキラー

#### *Judas Priest "Painkiller" より*

まるで怪獣映画の脚本のようだが、これはイギリスのヘヴィメタルバンド、ジューダス・プリーストの『Painkiller』という、彼らを代表する曲の一節である。少しこじつけ気味になってしまうが、今度は1974年の『ゴジラ対メカゴジラ』公開時におけるキャッチコピーを思い出してほしい。

宇宙をとび ミサイルを撃ち込む! 全身が武器の凄いゴジラが現れた!

いかがだろう。どことなく『Painkiller』の世界観と共有している  
「何か」を感じないだろうか。

「メタル・ゴッド」とも称されるジューダス・プリーストは音楽性のみならず、ビジュアル面でも後続のバンドにも影響を与えている。1969年に結成されたジューダス・プリーストは、キャリアを重ねる過程において、その音楽性やビジュアルを徐々にソリッドで男性的なものへと変貌させていく。初期のジューダス・プリーストは、当時の英ロックシーンでメインストリームであったサイケデリック・ロックやブリティッシュ・ハードロックを基調とした音楽性、QUEENのような全身タイツを身にまとったアピアランスであったが、5thアルバム『Killing Machine (邦題：殺人機械)』を発表した1978年ごろからは、徐々に独自のカラーと方向性を打ち出していく。メンバーは鉾つきのレザージャケットや鉄鎧のような衣装を戦闘服のような攻撃性として纏うようになり、オジー・オズボーンと並ぶヘヴィメタルのアイコンでもあるシンガーのロブ・ハルフォードはハーレーダビッドソン (バイク) に跨ってその轟音とともにステージに登場するようになった。そのステージセットは大規模で、背後に巨大な鋼鉄製のモンスター《メタリオン》のオブジェをあしらったりすることもあった。

メンバーは演奏時にギターやベースをまるで武器のように観客席に突きつけながらフォーメーションを組む。さながら東映の戦隊ヒーローや、『ロボコップ』のビジュアルにも影響を与えたとされる銀色のコンバットスーツが美しく、どこことなく未来を感じさせる印象的な『宇宙刑事ギャバン』をはじめとした「メタルヒーローシリーズ」を髣髴とさせる。

音楽的には前述のブラック・サバスと対をなすように、金属的でスピード感のある楽曲をいち早く広めたことでも有名である。マッチョでヒロイックな世界観を展開させながら、上記のようにスピード、破壊、パワーを連想させる歌詞を、重機がひしめくようなサウンドとレーザー光線のようなハイトーンヴォイスに乗せて聴衆にぶつけるのだ。

回転する先端がミサイルの手、鉾（スタッド）に覆われた全身、虹色に輝く破壊光線。初めてスクリーン上にその煌びやかに輝く銀色のメタリックボディを露わにしたメカゴジラの鮮烈なビジュアル、当時の少年たちはすっかり心を奪われた。それと同じように、野暮ったい野郎たちの音楽であったハードロックのファッション性や音楽性に、先進的なソリッドさ（鋼鉄の質感）をもたらしたジューダス・プリーストに当時のロック・キッズたちは拳を突き上げ喝采を送った。

きわめて雑なまとめかたを許してもらえるならば、近年特撮ファンの溜飲を下げまくった、日本の怪獣・ロボットものをハリウッドの大予算をつぎ込んで製作した超大作『パシフィック・リム』のように、男子が大好きな要素を、大袈裟かつ大真面目に思いっきりパッケージにしたメタルバンドの先駆けともいえることができるバンド、それがジューダス・プリーストなのだ。

仮説2：ヘヴィメタルと特撮映画は「未来的」で「ソリッド」でありそして「ヒロイック」である。



1983年発表のアルバム『Defender of the Faith（邦題：背徳の掟）』のアートワークに描かれた怪獣「メタリオン」がこいつだ！



オジー・オズボーンと並ぶヘヴィメタルの象徴的存在、 ロブ・ハルフォード。  
その鍔だらけのコスチュームは、メカゴジラの持つ未来感や攻撃性に共通してはいないだろうか。

## 【ROUND 3】 戦いの歴史の再現装置

### 【ROUND 3】

#### 戦いの歴史の再現装置

#### ～Iron Maiden 対 東宝特撮戦記シリーズ～

8時：敵は我々の後方にまわり込む

10機のME-109が朝日に輝く

急上昇で 敵をかわせ

向きなおって 銃の狙いを定める

機体を傾け 旋回 急降下

旋回 急降下 攻撃を繰り返せ

急げ 生きると命をかけて飛ぶ 生きるか死ぬか

急げ 生きると命をかけて飛ぶ 撃墜王たち

*Iron Maiden “Aces High” (撃墜王の孤独) より*

「我らは最後まで戦い続ける。フランスで、海で、大洋で我らは戦う。  
またいや増す自信と力とをもって空で戦う。たとえいかなる犠牲を払っても、  
我らは祖国を護る。浜辺で、滑走路で、野原や街路で、丘陵で我らは戦い、断じて降伏しない。」

これは1940年、第二次大戦時の英首相、チャーチルが自国民を奮い立たせた歴史的なスピーチの終盤部分である。それから45年後の1984年、イギリスのヘヴィメタルバンド、Iron Maiden(アイアン・メイデン) 5枚目のアルバムとなる『Powerslave (パワースレイブ：魔力の刻印)』において、イギリス軍とナチスドイツ軍の大空戦「バトル・オブ・ブリテン」を英国側の視点で題材にした「Aces High (邦題：撃墜王の孤独)」を1曲目に選んだ。大空を超高度・超速度で駆け抜けるように刻まれるツインギター・リフとベースライン、殺し殺される状況下にある緊張感と焦り、そしてそれと対に存在するような、ある種の高揚感を表現したハイトーンボーカルによるメロディラインは当時のメタル・ファンを熱狂させ、年月が経った現在もなお、この曲を彼らのベスト・ソングに挙げるファンやリスナーも少なくない。翌1985年にリリースされたライブアルバム「Live After Death (邦題：死霊復活)」の1曲目もこの「Aces High」から始まるのだが、ライブ開幕の演出として、上記のチャーチルのスピーチが流され、彼の「We shall never surrender (我々は決して降伏しない)」という言葉が放たれた瞬間、「Aces High」の一度聴いたら耳から離れない、勇壮なイントロが始まるのだ。筆者はヘヴィメタルを聴き始めて間もない10代後半にこの一連の流れを初めて聴いたのだが、全身が雷に打たれたような衝撃を受けるほど、そのカッコよさに痺れてしまった記憶がある。と同時に「これこそがヘヴィメタルだ!!!」と根拠のない確信を得たのである。

特撮映画の歴史は、怪獣映画が生まれるそれよりも前に、いわゆる「戦記もの」に端を発したこととしてよく知られている。特撮の神様、円谷英二は太平洋戦争時の戦意高揚映画『ハワイ・マレー沖海戦』での特殊技術を高く評価され、以後は特技監督として不動のポジションを手に入れることとなった。

また、劇場公開用作品としての円谷の遺作となったのも、日露戦争を題材とした戦争映画『日本海大海戦』であった。このように、史実である過去の戦争における空戦や海戦など、当時の模様をカメラで収めた映像は軍の記録映像として残されたものもあるにはあるが、実際の情景を追体験するものとしては鮮明さに欠けていたり、情報量が少なかったりすることがままあるのであるが、それを補い、エンターテインメントとして再構築することに最大限の効果を発揮することに成功し、戦いの歴史の再現装置として一役買ったのが、ミニチュアや火薬、操演などに代表される特殊技術による映画撮影、すなわち「特撮」なのである。

ヘヴィメタルという音楽や、その演奏者たるヘヴィメタルバンドもまた、戦いの歴史の語り部としてその役目を十分に果たしているといっても過言ではない。アイアン・メイデンもまた、ヘヴィメタルを語るうえでは見過ごすことの決して許されない最重要バンドのひとつである。現在までのレコードセールスは8500万枚を超え、世界で最も成功しているヘヴィメタルバンドの一つである。1975年にロンドンで結成され、1980年代初頭にイギリスで巻き起こった新しいロックの潮流、NWOBHM (*New Wave Of British Heavy Metal*) を牽引し、1980年代から1990年代初頭におけるヘヴィメタル・ブームの立役者となった。幾度にもわたるメンバーの変更を経ながら、21世紀に入ってもなお精力的に活動している。バンド名は、中世ヨーロッパの拷問器具「鋼鉄の処女」に由来する。彼らが得意とするのは、人類の戦いや争いの歴史を実に雄弁に、そして勇壮に語ることであり、またそれを可能とするソングライティング力や演奏力、そしてカリスマ性を十分に彼らは兼ね備えているのである。クリミア戦争における「バラクラヴァの戦い」について歌った『*The Trooper* (邦題：明日なき戦い)』、ネイティブアメリカンたちの目線で、かれらと開拓者である白人との戦いを描いた『*Run to the Hills* (邦題：誇り高き戦い)』、第2次大戦で最も大規模で「史上最大の作戦」と呼ばれた「ノルマンディー上陸作戦」を題材にした『*The Longest Day*』など、アイアン・メイデンは数多くの「戦記」を楽曲として発表した。

先ほど紹介したアルバム『*Powerslave*』には、『*2 Minutes to Midnight*』という楽曲も収録されている。邦題は『絶滅2分前』であるが、これはキューバ危機に代表される、東西冷戦時代に緊張が高まった核戦争への緊張感を歌ったものであり、「絶滅2分前」が意味するのは、核戦争などによる人類の絶滅(終末)を午前0時になぞらえ、その終末までの残り時間を「零時まであと何分」という形で象徴的に示す「世界終末時計」のことである。東宝特撮映画の作品群の中にも、傑作としての呼び声も高い『世界大戦争』という、円谷英二による徹底的かつ無慈悲な破壊表現と、松林宗恵監督の人の世の無常観を淡々と描き出す演出による、東西冷戦と核戦争をテーマにした超大作がある。人類の戦い、争いの歴史に関しては、広くは過ちとして繰り返すべきではないもの、すなわち愚かな人間の業である、とされる。しかしながら、世界中の人々がたゆまぬ努力を続ける一方で、人間の歴史から争いはなくなることはない。そんなシニカルな側面を持った価値観と、人間が動物的本能、プリミティブなものとして備えている、闘争心や攻撃性を効果的かつ芸術的に、ひいては平和的に表現することのできる技法のひとつが、特撮技術やヘヴィメタルなのではないだろうか。

仮説3：ヘヴィメタルと特撮映画は

「叙事詩的(エピック)な戦いの歴史の語り部」である。



**Iron Maiden**はステージ上でも「戦う」。

バンドのマスコットキャラクター「エディー」がライブ中に突如として現れ、演奏中ギタリストと格闘する一コマは、ファンの間ではおなじみの光景で、まるで怪獣と戦うヒーローショーさながらである。

## 【ROUND 4】 ゴジラvs聖飢魔II

---

### 【ROUND 4】

#### ゴジラvs聖飢魔II

～ロック界で最もゴジラを愛するシンガー、デーモン閣下～

理想を振りかざすだけ虚しくからまわり  
すべて食いものにした 罪深き知的生物

愛がすべてなら 聴かせてみせろ  
愛が答えなら やつらの咆哮を  
愛がすべてなら 戻してみせろ  
愛が答えなら やつらの夢を  
愛がすべてなら やつらは何処に  
愛が答えなら 耳を澄ませ

*Monsters' crying now*

聖飢魔II 『害獣達の墓場』より

聖飢魔IIは1985年にデビューし、1999年に活動を終了した後も現在に至るまで  
数度期間限定で再集結を果たし、現在もなお、お茶の間のご意見番や、角界の有識者  
としても知られるボーカリストのデーモン閣下をはじめとしたメンバーも、  
現在に至るまでそれぞれ音楽シーンの第一線で活躍するタレント性、実力を  
共に兼ね備えた実力派ロックバンドである。

「お前も蠟人形にしてやろうか！」の決まり文句で有名な  
「蠟人形の館」が彼らの代表曲ということは皆が認めるところであるが、  
確かに、1980年代の初期ラインナップにより発表された経典（聖飢魔IIにおいては、  
シングルやアルバムのことを指す）は歌詞やパフォーマンス面でブラック・サバスのな  
オカルト、ホラー要素を前面に押し出し、音楽的にも比較的純度の高いヘヴィメタルを演奏していた。

『害獣たちの墓場』は1988年に発布された大教典（アルバムのこと）  
『The Outer Mission』の中に収録された一曲である。この経典の前後の作品から  
聖飢魔IIの音楽性、そして表現力は拡がりを見せていき、初期に顕著であった  
おどろおどろしさやある種のコミカルな要素はややなりを潜めだし  
（それでもデーモン閣下や構成員のトーク力、タレント性はデビュー当時から  
変わらず群を抜き尚且つ維持していた）、従来彼らが持っていたインテリジェンスや  
作家性が徐々に楽曲に現れていくのである。当楽曲にある「害獣（けもの）」が  
何を指すのかは明らかにされておらず、読み解く側に様々な想像をもたらすのであるが、  
実はこの曲の終盤、突如としてゴジラの咆哮が響き渡るのである。  
それを踏まえて上に記した歌詞の引用をもう一度読んでいただきたい。

ゴジラが害獣、すなわち怪物や怪獣の代表者として咆哮を上げたと仮定しよう。

そしてある程度作品数を観ている読者なら分かると思うが、怪獣映画において頻出するプロットの骨子は、『人間の利己的な動機から生じた軽はずみな行動により眠っていた巨大な災い（怪獣）が目覚めてしまい、人間社会を蹂躪したのち、その報いとして、災いを引き起こした人間の手により滅ぼされるか、その身を隠すことになる」といった、最終的に人間自身の傲慢さを痛烈に皮肉る、という内容であることが多いことに着目してほしい。聖飢魔IIの構成員は人間ではなく悪魔であり（ここは深く突っ込まない箇所である）、人間社会を斜に構えた視点から俯瞰している。人間の最も尊い価値観のひとつである「愛」を正当化するために、それ以外の生物を自分たちの倫理で虐げてはいないか？ないがしろにはしていないだろうか？といった、ある種のガイア（地球）思想に立った言葉にも解説できるこの詩を紡いだのは、ロック界で最もゴジラを愛する男、もとい悪魔のデーモン閣下であった。ここからは彼の怪獣フリークとしての一面を少しだけ覗いてみるとしよう。

まずは音楽活動における、ゴジラなどの怪獣からの影響を受けたであろう事例を列挙する。聖飢魔IIのメジャーデビュー作『悪魔が来たりてヘヴィメタル』の楽曲、『悪魔組曲 作品666番 二短調』の第3楽章には『KILL THE KING GHIDRAH』というインストゥルメンタル曲があり、これは怪獣名のキングギドラとイギリスのハード・ロックバンド、リッチー・ブラックモアズ・レインボーの『Kill the King』という曲名のひっかけである。また、デビュー当時から現在に至るまで、黒ミサ（ライブ）の登場SEにはゴジラ作品のBGMが使用されている。1995年に日比谷野外音楽堂にて開催された、地球デビュー10周年を記念したイベントは、過去に在籍していた構成員も再登場する、新旧メンバーが勢ぞろい出演する特別なミサであった。当イベント名はその内容もあってか、『オール悪魔総進撃』であった。

次に、デーモン閣下が音楽以外に怪獣とどんな関わりを持ってきたかについてである。ゴジラファンの間では常識のひとつとして数えられるかもしれないが、『ゴジラvsピオランテ』の劇中に、デーモン（当時「小暮」）閣下は本悪魔（人）役として出演した。1989年、聖飢魔IIが破竹の快進撃を続けていたころのことであるが、その直前の1988年の秋に放送された某TV番組では、デーモン閣下による非常に興味深いトークが収録されていたのである。フリートークと思わしき会話の途中、不意に「ゴジラのマネが上手なんですって」と話題を振られたゲストの閣下は、世を忍ぶ仮の姿で地球に潜伏していた時代に、とあるラジオ番組内の東宝が提供していた「ゴジラ鳴きまねコンテスト」で優勝したエピソードを語ったのちに、実際にゴジラの咆哮をその特徴の解説を交えて再現してみせ、司会のタモリを驚嘆させたのだ。そればかりかアンギラスの、さらに調子づき、キングギドラの鳴きまねを披露した上に、科学特捜隊の着信音も同様であると力説するのだ。最後にはウルトラマンの秀逸な声マネでスタジオを爆笑させたこの当時の番組の様子は2016年6月現在、Youtubeで閲覧可能なのでぜひその目と耳でチェックしてもらいたい。まだミュージシャンとしてのキャリアをスタートさせる前のころの話だったため、当時の東宝の関係者はまさかデーモン小暮がコンテストの優勝者だったとは思っていなかっただろうと本人は語っていたが、その直後（または直前？）にゴジラ映画に出演したことを考えると、双方に何らかの接触なり、コネクションが存在していたのではないかと思われる。この番組以外にも、1984年に復活したゴジラ関連の特番と思わしきTV番組の1コーナーに素人として出演する、世を忍ぶ仮の姿でのデーモン閣下の「3か国語ゴジラ」なるネタも同様にYoutubeで確認可能であるが、いつ消されてもおかしくない貴重映像であるため、

早めの視聴をお勧めする。

聖飢魔IIの創始者であり、初期楽曲の多くを手がけた<地獄の皇太子>ダミアン浜田殿下は、聖飢魔IIのコンセプトを形作り、デーモン閣下をボーカリストとして招き入れた張本人である。彼もまた怪獣ファンであることを公言しており、自身のtwitterアカウントでは自らが手がけた楽曲「怪奇植物」の歌詞をリライトする際には、ウルトラQのマンモスフラワー、ウルトラマンのグリーンモンス、マタンゴをイメージしたといい、後年現れたビオランテを見て、「これこそが怪奇植物」と心底感激したというエピソードを語っている。良くも悪くも日本におけるヘヴィメタルのイメージを定着させてしまった聖飢魔IIとゴジラには、実にここまで深い関係性があったのである。両者の間には、人間社会への強烈なアイロニーと、エンターテインメントを創出する者としての底知れぬ知性とパワーを感じざるを得ない。

仮説4：ヘヴィメタルと特撮映画は、「強烈な皮肉を秘めた、上質のエンターテインメント」である。



全くの余談ではあるが、デーモン閣下ともきっと縁遠くないであろう**KISS**のジーン・シモンズはインタビュー等でたびたびゴジラについて言及することから、彼もまたファンなのではと推測される。その証拠(?)に彼のブーツは・・・・・・・・

## 【ROUND 5】 反逆者たちの賛歌

---

### 【ROUND5】

#### 反逆者たちの賛歌

リア充vs特撮・ヘヴィメタル連合軍

～虐げられる者たちの復讐とヘヴィメタル、そして怪獣～

気をつける

お前が押し広げようとしている境界線に限界はない

俺はお前に警告したのにお前はまだ

俺の精神を痛めつける

俺のこの怒りから逃れるすべはない

本当のことなど何もない

*Bullet for my Valentine* “Waking the Demon” より

欧米のどこかだと思われる高校で、アイアン・メイデンのTシャツを着たもの憂げな色白の男子がひとり。その背後から同級生と思わしき別の男子がちよっかいを働く。色白男子への嫌がらせは教室でも。足を引っかけて転ばせ、ごみを投げつける。それに留まらず、シャワールームで水をぶっ掛けたり、カバンの中をぶちまけたりしても決してやられているほうの男子は彼らにやり返そうとしない。立派ないじめである。何もしない代わりに、色白男子のすることとは、毎日が過ぎるごとにロッカーの中のカレンダーに、x印をつけていくのである。何かを待っているようだ。そうしているうちに満月の夜が訪れ、色白の彼はある行動に出る。自分の本当の姿で、その爪と牙で、自分を虐げてきた輩に復讐を遂げるために……………

と、以上がBullet for my Valentine (BFMV)というイギリス出身のヘヴィメタルバンドの『Waking the Demon』（直訳すると「悪魔の覚醒」？）MV内ドラマパートにおけるざっくりとしたあらすじである。

前半部分はアメリカなどの学園ドラマによく出てくる、「ナード（根暗なオタク）対ジョック（スポーツマンなどの人気者）」の構図であり後半部分も含めると、松田優作も出演した東宝特撮映画『狼の紋章』にも通ずる、学園ものと変身人間もののハイブリッドのような短編映像である。

多くの方はもう、というかともと感じている部分もあるとは思いますが、このMVが指し示すように、ヘヴィメタルファンは日陰者として、「図書委員」や「ゴス」ルックの女子らとともに、学校の不人気ものとしてたびたび扱われるのである。そしてBFMVのMVのように狼男に変身ができなくとも、彼らにとってヘヴィメタルを爆音で聴き、場合によっては奏でることは、妄想と創造の内に、自分を虐待する学校の筋骨隆々、もしくは容姿端麗な男子、またはチアリーダーに代表される、全く手の届かない女子たちを、前章で述べたような、凄まじい暴力と幻想力によって葬ることができる

一番のストレス発散法であり、その小さな世界で生きていくための糧であったりするのである。極端な例だと、I Killed the Prom Queenという、訳してみると、「俺はプロムクイーン（学校で一番人気の女子）を殺った」などという物騒極まりない名前のメタルコア・バンドも存在するくらいだ。

映画監督のティム・バートンは熱狂的なゴジラ・ファンとして知られているが、彼も社会性に乏しい、少し人とは違ったパーソナリティであったとされ、またアンダーグラウンドの世界観を表現することに最も長けている映像作家のひとりである。ここ数年の彼の映画作品はややゴスよりのテイストが強い印象があるが、『シザー・ハンズ』、『エド・ウッド』、『バットマン・リターンズ』など、90年代の作品群には、彼の「異形の者」への深い愛情が全編に渡って満ち溢れている。優しい心を持ちながらも両手が凶器（ハサミ）の人造人間エドワードは町の美しい娘と報われない恋をし、執念の映画監督エド・ウッドと落ちぶれた往年のホラー映画スター、ベラ・ルゴシはひたすらB級映画にその命を燃やし続け、奇形で生まれてしまったために親に捨てられたペンギンは、地下で自らの軍団を結成し、地上の人間に復讐を図る。

ファンの方々には改めていうまでもなく、数々の特撮作品に登場する怪獣や所謂「悪役」は既存の人間社会や文明に混沌と破壊をもたらし、自らの目的を達成しようとする。その背景には、自らが過去に被ってきた、虐待や不遇の歴史が存在することがほとんどである。試しにいくつか例を挙げてみるでしょう。

- ・人類の核実験により棲家を失い、放射能の影響を受けて怪獣化してしまったゴジラは戦後間もない帝都・東京に現れ、再びその地を火の海へと変えてしまう。（1954年版『ゴジラ』）
- ・同じく地上人の核実験により安住の地を脅かされたシートピア海底人は守護神でもある怪獣メガロを地上に放ち、さらには発明家の伊吹博士の開発したロボット、ジェットジャガーを奪取、地上人への逆襲を企てる。（『ゴジラ対メガロ』）
- ・かつてある国で宇宙開発のために打ち上げられた人間衛星のパイロット「ジャミラ」は遭難、その事実を母国に秘密裏に葬られ、宇宙空間に適応できる怪獣へと変貌してしまう。その復讐として、国際会議に出席する各国の要人を襲撃する。（ウルトラマン 第23話『故郷は地球』）

ヘヴィメタルのサウンドやコンセプト、また怪獣映画等の作品内で見せ場となる破壊描写とその動機から、ある種のネガティブな感情を見出すことができるのは、それらに込められた作り手の表現したかった「憎しみ」や「怒り」「復讐心」が、見聴きする受け手側に作用するからであって、それに共感したり、同情したりすることで観る側は心のどこかで自らの胸の内にも芽生えるネガティブな感情を、すり替えて解消している部分が少なからずあったりするのではないだろうか？（少なくとも筆者はそうだ）

デスメタルやグラインドコア、ブラックメタルといった、ブルータル（残忍・横暴）な音楽性が際立つヘヴィメタルのサブジャンルでは音楽性もとことんブルータルであり、ヴォーカルもグロウル（咆哮、いわゆるデス声）が中心、マシンガンのようなドラムサウンドに工事現場の騒音のような弦楽器隊のサウンドが

特徴的である。扱う題材も世界観もストレートで、死や破壊、臓物や悪魔崇拝といった日常の社会生活にはそうかんたんに持ち込めない要素をふんだんに取り入れている。では、そのようなバンドをやっている人間やファンは、そんな暴力的で残虐な人格を持ち、人間社会でも狂気の沙汰を繰り返しているかといわれると、どちらかというと思慮深く常識のある人であることのほうが多い（あくまで筆者の所感であるが）。

一方で、人間を襲い街を破壊する、禍々しいほどに凶暴な怪獣たちが大暴れするテレビや映画を大人になってまで愛好している人たちがそれほど禍々しいパーソナリティを持っているかと聞かれたら、これもまた違うことのほうが多いのではないだろうか。むしろおとなしい、喧嘩なんて滅多にしない人たちの割合が多いはずだ。（やはりこれも筆者の所感である）

何が言いたいかというと、ヘヴィメタルも怪獣映画もベースには「死」「破壊」など、ネガティブな要素が満載である。それらを愛好する心理の深層には、作品を製作する、または鑑賞することでまるで自らが抱えるネガティブな感情を「すり替えてしまう」ように昇華する、または昇華したいという意識が働いているのではないだろうか。

毎日、学校や職場ではじっと歯を食いしばって、なるだけ「まともでいい人」を演じるべく努力している。

生きるためとはいえ、それだけでは生きている実感が湧いてこない。

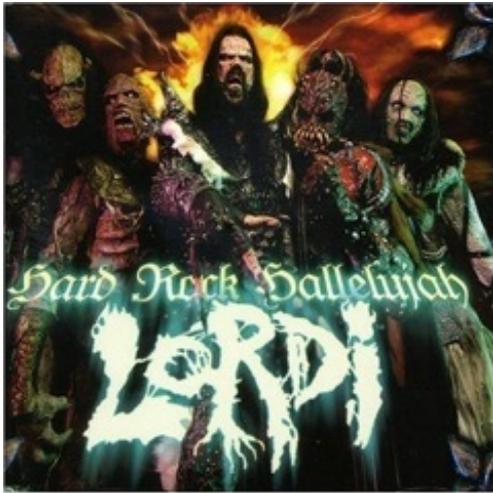
怪獣が自分の街を（例え作り物でも）ぶっ壊す。ブルータルなサウンドに乗せて憎きものを殺し、内臓を抉り出す詩を歌う。破壊する者たちの姿は往々にして醜く、暴力に満ちた破壊的なサウンドは、聴く人によっては、ただやかましいだけの騒音でしかない。

でも、きっと我々はそこに「スカッとした」爽快さを求めている。

筆者はこれを「破壊衝動のアウトソーシング（外部委託）」と呼ぶことにした。読者の皆さんもこれ、きっと無意識（もしくは意識的）にやっていますよね？

仮説5：ヘヴィメタルと特撮映画は

「破壊衝動のアウトソーシング」に最適な媒体である。



この怪人5人組は、こう見えてバンドである。

フィンランドのハードロックバンド、**Lordi**（ローディ）

も**BFMV**とほとんど同様のフォーマットの**MV**

『**Hard Rock Hallelujah**（ハードロック黙示録）を製作している。

メタル好きなゴス女子高生が体育館に現れたローディの力を借り、

そこにいた**cheerleader**たちをゾンビに変えてしまうというなんともカルトな**MV**だ！

## 【ROUND 6】伊福部昭 vs ヘヴィメタル

---

### 【ROUND 6】

#### 伊福部昭 vs ヘヴィメタル

～大独断！「ゴジラの守護神」が内包するヘヴィメタル性～

伊福部音楽の力とは、「日本という土に生きる魔力」だと思うのです。

たとえば古代の一族が戦いに敗れ、束縛の中で生きてきた。

その敗れた者の内に蓄積されたエネルギーと「解き放たれたい」

という強い意志。そういうものを体現した音楽だと思えるのです。

富山省吾『ゴジラのマネジメント』より

ここまで本項を読んでいただいているということは、相当な暇人か（失礼）

奇特な方だと推察されるが、そろそろその方々もお気づきのころだと思う。

それは、本誌の表紙や告知においても本項を「音楽論」と銘打っておきながら、

書き連ねているのはヘヴィメタルバンドのコンセプトや歌詞の世界観と

特撮作品との共通性であり、ただのひとつも、本質的に音楽について

論じていないということである。

そこで本項では、「怪獣映画の音楽」と聞いて真っ先にイメージするであろう、

作曲家の伊福部昭について言及し、また彼のプロフィールや音楽観、作風などから

それらに内在する「ヘヴィメタル」性をあぶりだしていくという、まことに畏れ多い試みを

紙幅をそれなりに割いて実践していこうと考えた。初めに断っておくが、

筆者はクラシック音楽はおろか、音楽理論については全くと言ってもいいほど知識を有していない。

あくまでもいちヘヴィメタル、いち怪獣ファンによる「大」のつくほどの独断であることを

頭の片隅においておいてほしい。

#### 《伊福部昭とゴジラのバックグラウンド》

最初の引用文に戻ろう。主に平成ゴジラシリーズを手掛けたプロデューサー、富山省吾は自身の著書『ゴジラのマネジメント』の中で、本多猪四郎、円谷英二、田中友幸、そして作曲家の伊福部昭をゴジラの生みの親と紹介した上で、伊福部の音楽を上記のような例えで表現している。また、政治学者で音楽評論家の片山杜秀は、ゴジラと伊福部は一心同体の存在であるという言葉まで残している。

何故伊福部とゴジラは一心同体なのか？多くのファンの方々には有名な話なので

多くはここでは述べないが、ご存じない読者の方々のために簡単に説明しておきたい。

上記の引用文で富山氏が

「たとえば古代の一族が戦いに敗れ、束縛の中で生きてきた。」

と表現したのは、古代の因幡の豪族を祖先に持つ伊福部のルーツを指していると思われる。

先祖は中央集権制を敷いていた大和に対して出雲、天津神に対する国つ神であることから

異端の側に位置しており、朝廷からは阻害されていたであろうことがわかる。

そのほか、片山は戦中に従事していた科学実験で放射線を浴び被曝していたこと、

日本人である伊福部が西洋のクラシック音楽を作曲し極めようとしたこと、また、その作曲法や音楽哲学から、クラシック音楽的な観点ではなかなか正当な評価を得られなかったことを挙げ、伊福部を「異端の存在」としている。そんな伊福部が、ゴジラにシンパシーを持たないはずはない。心情的に同化しないはずがないと。

ゴジラと伊福部昭。いずれも似て非なる者ながら、前者はその巨大な体躯と力を用い、後者は独自に磨き重ね上げた知恵と音楽センスで、そして近代文明によって傷つけられた者としての大きな熱量と突進力、ネガティブもポジティブもすべて飲み込むようなそれらを渾然一体としながら我々作品を観る者にぶつけてくるのだ。

#### 《ドゥーム・スラッジとの親和性》

数あるヘヴィメタルのサブジャンル中には、「ドゥーム」や「スラッジ」といった系統のものが存在する。「ドゥーム (doom)」、すなわち「破滅」、「死」、「神が下す最後の審判」、「スラッジ (sludge)」イコール「汚泥に足を取られたような」という意味から連想されるような、通常よりもはるかに重低音でひたすらスローなテンポを基調とした、重々しく陰鬱な、アンダーグラウンドなジャンルとされるヘヴィメタルにおいてもさらに地下に位置するマニアックでディープなサブジャンルが、「ドゥーム」であり、「スラッジ」なのであるが、その起源は前述のブラック・サバスであるというのが定説である。『ゴジラ』や『大魔神』の楽曲は彼らモンスターの動作（歩みや咆哮）と連動しているかのような図太さを持ち、その質量を具現化したような、特徴的な音像が耳から離れない。

また一方で、軽快でもあり荘厳でもある『怪獣大戦争』や『L作戦マーチ』などのミリタントな楽曲も「伊福部昭節」を語るうえでは外せない。こちらは先の章でも紹介した、Iron Maidenを一例に挙げたような「バトル・メタル」的な勇壮でエピックな要素を多分に含んだ、男子なら聴いていてアドレナリンが分泌されるような楽曲群であり、恐らく伊福部も旧ソ連の作曲家、ショスタコーヴィチ（注）などに影響を受けた、重厚なマーチを得意としていたのではないかと思われる。

#### 《リズム、そしてオスティナートとフリギア旋法》

伊福部は自身の著書『音楽入門』において、我々人間が音楽を受け取る（聴く）際には、最初に律動（リズム）に打たれることから、音楽において最も本質的なものは律動（リズム）であることを立証していると論じた。またそれに加え、同じリズムとフレーズを執拗なまでに繰り返すことで、その曲を印象付けることが可能になると説明している。

これを音楽用語で「オスティナート」という。

「オスティナート」とは、あるパートを、一定の音型で繰り返して演奏するという意味の音楽用語である。これは、広義的には「リフ」（リフレイン）とも言い換えることが可能であり、「リフ」というのは、主にポピュラー音楽において、ソロ楽器やボーカルのバックとして使われたり、また比較的簡素でテーマの中で繰り返し使用される短い反復フレーズのことを指す。もっとも有名な『ゴジラ』のメインテーマでも一際印象に残る3連のフレーズや、勇壮なマーチ『海底軍艦』のメインテーマで頻出するあのフレーズ、『SF交響ファンタジー第2番』でも聴くことができる、低く響き続けるキングギドラのテーマなどは、「オスティナート」による効果であるということが出来る。

ヘヴィメタルやハードロックにおける「良曲」の定義のひとつに

ギターリフがどれだけキャッチー、つまり、いかに聴き手の記憶にリフレインさせるフレーズを刻み込むことができるか？というものがある。もちろん、歌メロや曲展開など、良曲を構成する要素というものは多岐に渡るわけであるが、欧米がメインのフィールドであるヘヴィメタルの楽曲を我々日本人が口ずさむ場合

（例えばどんな曲かを端的に他人に伝えたいときなど）は、歌唱パートではなく、メインとなるギターリフをスキット（注2）で表現する機会が多いのではないかと思う。特に歌メロよりもギターリフが楽曲の軸の比重が重いスラッシュ・メタルや、そこから派生分岐したデスメタル、メタルコア、デスコアといったサブジャンルにおいて、その傾向は顕著であるといえる。

さて、伊福部昭の手がけた『ゴジラ』のテーマはそもそも歌詞がないわけであるから、上記の例えとは比較のしようがないかもしれない。しかし、敢えて両者の共通項を見出すなら「そのリフレインされるフレーズを口ずさむだけで、大多数の人に伝わる」

このポイント1点につけるはずだ。1997年にNHKで放送された

「E T V特集 ゴジラのテーマをつくった男 作曲家・伊福部昭」の冒頭、道行く外国人にゴジラのテーマ曲は？という問いかけに、彼らはの多くが「デデデン、デデデン」だとか「ダララ、ダララ」というように、あの3連フレーズを口ずさむ様子が印象的であったが、メタルファンの間ではあのような光景はほぼ日常的に行っている（もしかしたら筆者の周りだけか？いや、そんなハズはない！）。

次はフレージング（旋律）について考察していこう。

伊福部が多用していた「フリギア旋法」とは、音の配列上、主音の上の音（Super Tonic）が常に半音であり、また主音の下音（Sub Tonic）が常に全音という形をとる演奏時の音の選び方、つまり旋法ということになるのだが、響き的には長調（メジャー。明るく陽気な印象）とも短調（マイナー。暗く悲しい印象）とも違う、どこことなく浮遊的でもあり神秘的な印象を与えるフレージングが可能になる。もう少しわかりやすい言葉で表現するならば、スペインのフラメンコやスラブ～中東の音楽を思わせるような、民族的でエキゾチックなメロディ、とでも言おうか。

これは日本古来からの民族音楽にも共通する部分があり、「都節（みやこぶし）音階」と呼ばれるものは、このフリギア旋法を用いた音階に非常に近いという。

伊福部は特撮作品以外にも日本の伝統的な音楽をフィーチャした『日本狂詩曲』や『土俗的三連画』といった作品を残しており、いずれも「伊福部節」全開の楽曲を楽しむことができる。個人的には同じく彼が手掛けた『大魔神』やその他怪獣映画の中でこれらの収録曲が挿入されても全く違和感がないと感じる。

伊福部昭が手掛けた特撮作品で該当するものを挙げてみれば、『キングコング対ゴジラ』のテーマ曲であったり、1954年版『ゴジラ』前半部分における神楽のシーンで流れる曲は上記の音階を少なからず意識したものであると考えられる。

ヘヴィメタルにおいては「フリギア旋法」は同義の「フリジアンスケール」という音階でギタリストのイングヴェイ・マルムスティーン等を筆頭に、その他メロディック・スピードメタルやスラッシュメタルのギタリスト達に好んで多用されている、こちらでも親和性の高いフレージングなのである。

《重心の低い、歪んだサウンド》

筆者が伊福部音楽とヘヴィメタルとの親和性を感じざるを得ない点はまだほかにもある。

『あまちゃん』など楽曲を手掛けたことで知られる作曲家の大友良英は、伊福部昭が昭和期に手掛けた怪獣映画の音楽の良さとして「くすんだ録音と重低音の刻印」を挙げている。どういうことかという、当時の録音環境や演奏者の技量も含め、「今と比較してはるかにくすんだ録音の、中低音域が以上にしっかりして歪んだ感じのあの独特の音抜きには怪獣ものは語れない」とまで評している。ヘヴィメタルに最も重要な要素として先ほどギターリフを挙げたが、大前提として、そのギターリフは適度、または十分に「歪んだ」音で奏でられることが一般的である。これを「ディストーションサウンド」と言ったりもする。そしてヘヴィメタルにおける代表的なギターリフは、楽曲の重厚さや迫力、場合によってはダークさを出すために、最もポピュラーな6弦ギターであれば6～5弦、さらに低い音の出る7弦ギターであれば7～6弦と、低い音程の出る太い弦を多用することが多い。

「重心を低くキープしたフレーズを、歪んだサウンドで繰り返す。」伊福部音楽のセオリーとヘヴィメタルサウンドのそれは、非常に近いのである。

ヘヴィメタルを聴いていると、ついつい頭を立てに振ってしまったり、握りこぶしを作って虚空に掲げたくなる。自分がまるで何かしらの強大なパワーを得た特別の存在になったかのように。伊福部昭の音楽は、鑑賞の際にはもちろん映像を伴う場合が殆どであるが、大きさ、力強さを常に感じさせてくれる、自分が破壊する側にもなることができるし同様に、地震や洪水といった天災ような抗えない大きな力にただただ翻弄されてしまうような、どこかプリミティブ（原始的）な感情を想起させられるのである。

これは余談風になってしまうが、興味深いエピソードを紹介して、これを本項の結びとさせていただきます。フランスのブルータル・メタルバンドのGOJIRAは日本のメディアからそのバンドネームの由来を問われた際に、「自分たちの音楽を表現するために、何か巨大で押しつぶすような力強い名前が欲しかった」と回答している。まさにこれは伊福部がコンセプトとした音楽性とそのまま合致する。

仮説6：伊福部昭の手がけた楽曲とヘヴィメタルは、それらのもつ共通性から「プリミティブな感情を呼び起こす音楽」であるといえる。

(注1)

ドミートリイ・ドミートリエヴィチ・ショスタコーヴィチ（1906年9月25日-1975年8月9日）ソビエト連邦時代の作曲家。交響曲や弦楽四重奏曲で有名な、芸術音楽における20世紀最大の作曲家の一人である。楽曲は戦争や死生観をテーマにした、暗く重い雰囲気のものが多いが、ジャズやポップス寄りの楽曲も残している。

(注2)

主にジャズで使われる歌唱法で、意味のない音（例えば「ダバダバ」「ドゥビドゥビ」「パヤパヤ」といったような）をメロディーにあわせて即興的（アドリブ）に歌うこと。

## 【終章】 最も「ヘヴィメタル」な特撮作品とは？

---

### 【終章】

#### 最も「ヘヴィメタル」な特撮作品とは？

仮説1：ヘヴィメタルと特撮映画は

「怪奇で」「ダークな」「復讐の」物語である。

仮説2：ヘヴィメタルと特撮映画は

「未来的」で「ソリッド」でありそして「ヒロイック」である。

仮説3：ヘヴィメタルと特撮映画は

「叙事詩的（エピック）な戦いの歴史の語り部」である。

仮説4：ヘヴィメタルと特撮映画は

「強烈な皮肉を秘めた、上質のエンターテインメント」である。

仮説5：ヘヴィメタルと特撮映画は

「破壊衝動のアウトソーシング」に最適な媒体である。

仮説6：伊福部昭の手がけた楽曲とヘヴィメタルは、それらのもつ共通性から、

「プリミティブな感情」を呼び起こす音楽であるといえる。

これまで、様々なヘヴィメタルバンドやその作品と、怪獣を中心とした特撮映画の共通する要素を挙げながら、両社の世界観、精神において通ずるものがあるとして、上の6つの仮説を挙げた。では、ヘヴィメタルの要素を持った特撮映画は何なのか？言い換えれば、最も「特撮らしい」特撮映画は何になるのか？実際の作品を例にして、（本項では東宝特撮映画に限定した）点数式で「筆者的トップ3」を発表してみよう。

これまでに論じた6つの仮説から、それぞれヘヴィメタル的な要素を持つであろう8つの項目を設け、その要件を満たす東宝特撮映画作品を3つ挙げてみた。

もちろん、これについても筆者の独断と偏見に基づくものであるため、異論は受け付ける。

※40点満点

1位『メカゴジラの逆襲』

未来度：3

ダーク度：4

ソリッド度：4

エピック度：3

破壊衝動度：3

復讐度：5

エンタメ度：3

伊福部度：4

\*総合ポイント：29\*

端的にヘヴィメタルの要素をバランスよく含んでいるのは、

この『メカゴジラの逆襲』ではないかと考えている。

まずはメインテーマである「逆襲」。メカゴジラ側のブラックホール第3惑星人による、ゴジラへの、地球へのリベンジマッチ、それと並行するマッドサイエンティスト真船博士の、自らを不遇に追いやった者たちへのリベンジマッチと、復讐の2重構造になっている点を高く評価した。作品のトーンとしては、真船博士の娘であるサイボーグ少女、

桂の物語も主軸となっており未来的、そして彼女を取り巻く物語も悲劇的でダーク。

そして何をにおいても、本多監督による演出と伊福部音楽が戻ってきたことによる全体の重厚感が、これまでの70年代ゴジラと比べ格段にアップしている点が特筆的だ。

本作では実質上主役怪獣ともいえるメカゴジラは前作よりソリッドさを増しており、首をゴジラにねじ切られても内部のメカで応戦を続けるというけれん味もエンタメ度に加点している。新怪獣・チタノザウルスの都市破壊シーンも前作のそれに比べても迫力があり、低予算でつくられた作品ながらも、バランスを欠くことなく満足感のある仕上がりとなっている。

## 2位『地球防衛軍』

未来度：4

ダーク度：1

ソリッド度：3

エピック度：4

破壊衝動度：2

復讐度：1

エンタメ度：3

伊福部度：4

\*総合ポイント：22\*

とにかくこの作品では、1950年代に製作されたものとしては

恐ろしいほどに未来的で、尚且つ壮大でファンタジック。

次々と現れる敵勢力に対抗し、呉越同舟で団結した世界人類は、その英知を結集し

次々と新兵器を投入、伊福部昭によるアツさ前回のマーチに乗せて、

マーカライトファープや $\alpha$ 号・ $\beta$ 号から放たれる画面からあふれ出しそうな

レーザー光線の応酬で、見事侵略宇宙人、ミステリアンを撃退することに成功する。

なにより物語のテンポ感が素晴らしい。重厚でありながらダレず、

スピード感がありながらも薄っぺらくならない。ヘヴィメタルにもこれが重要だ。

2章、3章で扱った、未来感、ソリッド感、バトル感、エピック感はこの作品に凝縮されている

といっても言い過ぎではないはずだ。

## 3位『ゴジラ対ヘドラ』

未来度：2

ダーク度：5

ソリッド度：3

エピック度：1

破壊衝動度：5

復讐度：2

エンタメ度：2

伊福部度：0

\*総合ポイント：20\*

どうしてもこの作品を挙げたかったのは、ヘヴィメタルのルーツでもある「ロック」や「アンダーグラウンド」の要素を最も持つゴジラ映画であるからだ。主題歌である『かえせ！太陽を』もロック調の楽曲であるし、当時流行したジミ・ヘンドリクスを彷彿とさせるサイケデリックロックに体を委ねディスコで踊り狂い、富士山麓で音楽集会を開こうとする若者たちのシーンは、ロック史上伝説となっているウッドストック・フェスティバルを意識したものであるはずだ。また、言うまでもなく対戦怪獣であるヘドラの破壊活動は汚染によるものであり、その描写は残酷極まりない。人間を骨と化し、ゴジラも目をつぶされる。工場の煙突から出る排煙を美味そうに吸うヘドラ、空を飛んでしまうゴジラ。光化学スモッグのように本作を覆うダークな終末観は、まさにヘヴィメタル。実際にスラッシュメタル系バンドのコンセプトやアートワークは核汚染や化学汚染に見舞われた破滅的な世界を扱ったものが多い。本作は、正統派メタルというよりは、地下要素の多いハードコアパンク~グライندコアの思想に近い気がしている（これについてはまた別の機会に詳しく論じたい）。それもあって、本項で仮説づけたその他の要素については該当しない部分も多く、全体的にはバランスが悪く、低めの数値となった。なお、本作の音楽を手掛けたのは眞鍋 理一郎であり、伊福部度は0とした。

まとまりのない終章となってしまったが、これだけの紙幅を割いて、そこまでの乖離や脱線を生じさせない程度にはヘヴィメタルと特撮/怪獣映画の共通項があるということをお分かりいただけたのではないかと。ただ、筆者の論じる「ヘヴィメタル性」は、多種多様化を続けるヘヴィメタルシーンにおいては、よく言えば教科書的に伝統に倣った、悪く言えば古臭い切り口と方向性に今回は敢えて舵を切ったことを付け加えておきたい。

これまでの仮説を覆しかねない極端な論だが、皆の思う「ヘヴィメタル」はそれぞれの中にあるのであって、これが正しいといえる定義など、本当はないのかもしれない。これはゴジラにも同じことが言える。皆の信じるゴジラは、それぞれの心の中にあるのではないだろうか。

とにかく今は、『シン・ゴジラ』を楽しみに待っている。そこにヘヴィメタル性が少しでも存在していればなお嬉しいのだが、いずれにしてもそれはもうすぐ分かることだ。



いずれもクロスオーバー/スラッシュメタルバンドのアルバムアートワークである。

この終末観たっぷりのイメージ、どこか「対ヘドラ」っぽくないですか？　そうですか・・・・・・・・

#### 《参考文献一覧》

- ・小野俊太郎『ゴジラの世界史』(彩流社、2014年)
- ・富山省吾『ゴジラの世界』(アスキー・メディアワークス、2015年)
- ・神谷和宏『ウルトラマン「正義の哲学」』(朝日新聞出版、2015年)
- ・伊福部昭『音楽入門』(角川ソフィア文庫、2016年)
- ・電撃ホビーマガジン編集部『ゴジラ東宝チャンピオンまつりパーフェクション』(アスキー・メディアワークス、2014年)
- ・別冊宝島 映画宝島Vol.2『怪獣学・入門!』(JIC、1992年)
- ・文藝別冊『片山杜秀責任編集 伊福部昭 ゴジラの守護神・日本作曲界の巨匠』(河出書房新社、2016年)
- ・『東京人 2016年8月号 特集：特撮と東京』(都市出版、2016年)
- ・キネ旬ムック『フィルムメーカーズ⑩ ティム・バートン』(キネ旬報社、2000年)
- ・Essi Berelian "The Rough Guide to Heavy Metal" (Penguin Books, 2005)

## 【特別付録】探してみよう！ヘヴィメタル系MVに潜む怪獣たち

---

### 【特別付録】

#### 探してみよう！ヘヴィメタル系MVに潜む怪獣たち

いろいろな例を述べながらではあったが、怪獣映画とヘヴィメタルは精神性や世界観を同じくする部分があるということが、なんとなくお分かりいただけたらどうか。やはりハードロック/ヘヴィメタル（以下、HR/HM）バンド関連の楽曲ビデオクリップには、映像の表現方法として、自身のほかに怪獣映画作品の一部や怪獣そのものをインサートしているものが少なからず存在する。ここではその中からいくつかをピックアップしてみようと思う。

#### ①Blue Oyster Cult : 『Godzilla』

アルバム『Spectres』（1977年）収録曲

タイトルからしてまんまゴジラである。それもそのはず、この楽曲はゴジラについて歌ったものであるからなのである。

メインはライブ時の演奏の様子であるが、1954年の『ゴジラ』のテレビ塔破壊シーンとバンドの間奏部分がリンクする展開があるのだが、そこではボーカリスト自身がなんともご丁寧なことに、片言の日本語で劇中の情景を再現し始めるのだ！

「臨時ニュースヲ申シ上ゲマス、臨時ニュースヲ申シ上ゲマス、ゴジラガ銀座方面ニ向カッテイマス、大至急避難シテクダサイ！大至急避難シテクダサイ！」

最後のほうでは日本語が崩壊しているのは生演奏中のご愛嬌といったところであろうが、MV全編に渡って、1954年版『ゴジラ』の東京破壊シーンが差し込まれており、彼らバンドのゴジラへのあふれんばかりの愛情とリスペクトをひしひしと感ずることのできる、ゴジラ×ヘヴィメタルのコラボレーションを象徴する珠玉の1本となっている。ちなみに「ゴジラ」のイオ大なるニックネームを与えられた元野球選手、松井秀喜がメジャーリーグ現役時代の入場テーマはこの曲であった。実はそれくらい、海外ではそれなりに市民権を得ている曲だったりもするのだ。

#### ②Iron Maiden : 『The Number of the Beast』

アルバム『The Number of The Beast』（1982年）収録曲

本編中でも紹介したIron Maidenのこれまた名曲である。

そのタイトル名からも分かるように、この曲のMVには狼男などの有名なモンスター（化け物）が冒頭から登場する。その中に、ふと登場するのが我らがゴジラ。

細切れに一瞬ずつ、いずれかのゴジラ映画のフィルムを利用したものが映し出されて、それがどの作品なのかの判別がやや難しいが、数名のファン仲間やインターネットユーザらによる分析によれば、『モスラ対ゴジラ』海外版のゴジラ（いわゆるモスゴジ）ではないかとされている。

#### ③RIOT : 『Overdrive』

アルバム『**Rock City**』（1977年）収録曲冒頭からいきなり

『モスラ対ゴジラ』の小美人（ザ・ピーナッツ）

が出てきてやや度肝を抜かれてしまうこのMV、その後使用されている劇中シーンは小美人と人間たちの登場する部分にとどめられており、どうやらセリフも独自のものに差し替えられているようである。筆者は英語のリスニング能力に難があるため、どんな内容のセリフになっているか、この楽曲との関連性についても理解する余地が現状ないのであるが、それも含めて何とも言えない良いB級感が漂う一本となっている。解読者、求む。

#### ④LOUDNESS：『LET IT GO』

アルバム『**Lightning Strikes**』（1987年）収録曲

最初に断っておくが、当曲は『アナ雪』の方のレリゴーではない。

むしろこちらのほうが20年以上先に発表された本家レリゴーである。

日本人にとってのゴジラは、アメリカにおけるミッキーマウスのようなもので、いわゆるナショナルキャラクターということになるろうかと思うが、1980年代に全世界に音楽的な殴り込みをかけたヘヴィメタルバンド、LOUDNESS（ラウドネス）もまた、日本を背負って世界と戦った、ナショナル（国家を代表する）なバンドであった。

MV全編には、まるで海外からの観光客を誘致する意図があるような日本の工業技術（エレクトリックギターの制作過程が映し出される）が紹介されていたり、秋葉原の電気街らしき町の風景が出てきたりと、ラウドネスの演奏と並行して日本の文化的な側面を、海外のメタルファンにも伝えようとする意図が見える。

まだインターネットのなかったこの時代には、日本の最新トレンドを伝達する手段がそれほどなかったのかもしれない、当時全盛を極めた新興音楽メディア、MTVもきっとこのMVを頻繁に流したであろう。そんなMVは、姿こそ見えないものの

（権利関係なのだろうか？）ゴジラの影と咆哮とともに終了する。

現在の感覚からすると少し野暮ったいが、それでも十分に素晴らしい、

日本のナショナルMVである。



Blue Oyster Cultの『Godzilla』来日記念盤のアートワーク。

摩天楼の背景にバンドショット、そして謎の「パーニング息子ゴジ」である。

極めつけはカップリング曲、『Born to Be Wild（ワイルドで行こう）』

これはステッペンウルフのカバー（他人の）曲だ。

この全くバンドのオリジナル感のないあたり、企画盤の醍醐味とも言える。

## あとがき

---

執筆にあたり協力してくださった方々にはお礼申し上げます。  
遂に始まったゴジラ新時代にこの本があったと記憶されると幸いです。  
《さよたま》

私の担当した聖地巡礼ネタは、ある程度世間で確立されている分野なうえ  
不特定多数の方々に読んで貰えるという事で、色々と気を使う部分はありました。  
他にも巡礼した聖地は色々あるので、また何らかの形で紹介できたらいいかなと思ってます。  
もし読者の方で、新しい聖地を特定できた方がいたら、気軽にTwitterとかで教えて下さい。  
個人的に活用させていただきます(笑)  
もしかすると、レクシズマーレポート第2弾で紹介させて頂くかもしれません。  
第2弾があればの話ですが。  
《ぶなしめじ》

データベース作成は根気のいる作業でしたが、  
"シン"発見がたくさんあり、怪獣映画の奥深さを再認識しました。  
読者の皆様が、自分と同じように気付きを得たり、  
新たな楽しみ方を見出せたなら、それほど嬉しいことはありません。  
「特撮アナライザー」と呼んでもらえるよう、これからも精進します！  
《帯津さんの後輩》

真夜中のおかしなテンションでポエムを綴る様に執筆しながら  
翌朝改めて読み返して死にたくなるサイクルを繰り返した結果、  
狂気の約3万字という分量になりました。  
それでも言いたい事の3分の1も伝えられていない純情な感情は、  
また何某かの形でお見せできればと思います。  
全国500万人(?)のメタルヘッズ、怪獣ヘッズの皆様のご意見、お待ちしております。  
ゴジラとヘヴィメタルよ、永遠なれm/  
《真田ゼウス》

【Special Thanks to】  
株式会社キャスト  
京都みなみ会館  
情報拡散してくださった皆様

『レクシズマーレポート』

**Vol.1 July.2016**

《特集》国産ゴジラ復活記念

「シン」海外事情・ロケ地探訪・データ分析・音楽論

©2016 R.E.X.I.S.M.R inc.